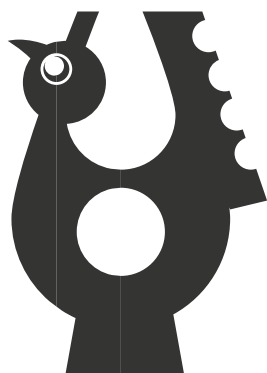


会 報

2024（令和 6）年度



社会福祉法人 天童会

理 念

私たちは、障害者の生命と生活を守り心身の成長・発達を援助し、その維持に努め社会のつながりを保ち豊かな人生を実現するために努力します

運 営 方 針

私たちは、一房のぶどうです。「園生の幸せ」の実を豊かに結ぶために、協働・共有・共感しつつ「存在」を支える支援を目指します。キーワードは「つながる」・「つなげる」です。



- 1 一人ひとりの園生の生命と健康を守り、個性を尊重し、自己実現を図ります
- 2 感染症対策をより一層推進し、安心安全な療育環境を整え日常生活や日中活動の質的充実を図ります
- 3 療育の専門職として知識・技能を高め、職員の協働により、きめ細やかな療育活動を進めます
- 4 ご家族とのつながりを大切にし、連携を深め、安心と信頼のある環境づくりを進めます
- 5 地域社会への包括的支援を担う法人として持てる機能を発揮し、力を尽くします
- 6 諸外国との国際交流を進め、福祉・療育に関わる人材の育成に貢献します

はじめに

日本の医療型重症心身障害児者入所施設は、重度の障害をもつ子どもたちや、医療的ケアを必要とする方々の支援において、長年にわたり中核的な役割を担ってきました。近年は、多様性を認め合い、すべての人々が支え合って生きる「地域共生社会」の実現に向け、施設の再編や機能強化が求められています。これに応えるため、厚生労働省の主導のもと、以下の重点的施策が進められています。

1つ目は、「地域生活への移行支援の強化」です。グループホームや短期入所施設の整備を促進し、地域のニーズに応じた支援体制の構築が進められています。

2つ目は、「医療的ケア児への対応の充実」です。医療技術の進歩により在宅生活を送る医療的ケア児が増加しており、医療型ショートステイの整備を通じて、家族のレスパイト支援や緊急時対応体制の構築が急務となっています。

3つ目は、「支援の質の向上と人材育成」です。看護職員の加配に加え、進展する医療ニーズに的確に対応するための教育体制の整備や、資格取得を含む人材育成の強化が求められています。

4つ目は、「地域包括ケアシステムとの連携強化」です。保健・医療・障害福祉・教育・保育など多分野との連携を深め、地域包括ケアの一翼を担うことが期待されています。

5つ目は、「財政的支援と制度の持続可能性の確保」です。物価高騰や人材確保の困難といった現実に対し、基本報酬の見直しや補助制度の継続が喫緊の課題となっています。

こうした流れの中で、厚生労働省は障害者総合福祉推進事業の一環として「障害者支援施設のあり方に関する調査研究」を進めており、令和7年度からは「療養介護」もその対象に加えられる予定です。これにより、重症心身障害児者入所施設の今後の在り方が、より広い視野から検討される可能性が生まれました。

今後は、施設入所を選ばず地域での生活を希望する大島分類1～4の重症児者や、重度の医療的ケアを要する児童の増加が見込まれます。しかし、18歳以降も家庭や地域で安定した生活を継続できるかどうかは、依然として大きな課題です。さらに、重症心身障害者の高齢化に伴う介護ニーズの増大や、基礎疾患・がんなどの合併症への適切な医療対応も求められています。

また、家族による老々介護への支援、少子化対策における財政的裏付け、看護・介護職員の高齢化対策や処遇改善など、山積する課題への的確な対応が急務です。ICTや省力化機器の積極的な導入も、今後の施設運営には不可欠となっていくでしょう。

入所施設は、こうした諸課題に応えつつ、利用者のQOL（生活の質）やADL（日常生活動作）の一層の向上を目指し、地域共生社会の理念と施設機能の充実との両立を図っていくことが求められます。去る2025年5月22日・23日に長崎市で開催された「日本重症心身障害福祉協会 全国施設協議会」に出席し、全国の関係者とともに、これらの重要課題を改めて共有する機会を得ました。

今後も全国の皆様と連携しながら、持続可能な支援体制の構築に向け、一層の努力を重ねてまいります。本会報が、その一助となることを願っております。

2025(令和7)年7月1日

社会福祉法人 天 童 会

理 事 長 大 石 勉

目 次

I	天童会概要	～～
1	沿革	1－2
2	役員状況	2
3	組織	3
4	決算	4－6
II	秋津療育園概要	～～
1	創設経緯	7
2	施設概要	7
3	入所者の状況	8－9
III	事業報告	～～
1	医務部	10－21
2	療育部	22－24
	療育部 第1病棟	25－31
	療育部 第2病棟	32－34
	療育部 第3病棟	35－36
	療育部 第4病棟	37－38
	療育部 活動報告	39－40
	療育部 療育サービス課	41－42
3	秋津療育園通園センター	43－48
4	秋津療育園相談支援センター	49－50
5	定例会議一覧	51－54
6	研修報告	55－56
IV	SLPセンターアーク	～～
1	施設概要	57
2	エメット保育園	58－59
3	児童発達支援センターマイム	60－63

I 天童会概要

I 天童会概要

1. 沿革

年月	概要
1958（昭和33）年11月	秋津療育園を開設（11月20日）
1959（昭和34）年7月	病床数21床で病院（入所）事業を開始（7月22日）
1962（昭和37）年12月	財団法人秋津療育園設立認可
1964（昭和39）年8月 2月	旧第2病棟、職員宿舍など増築 28床増床（病床数49床） 厚生省事務次官通達に基づく重症心身障害児施設として承認
1965（昭和40）年3月	旧第1病棟、炊事棟、管理棟など増築 51床増床（病床100床）
1967（昭和42）年8月	児童福祉法改定、児童福祉施設となる
1970（昭和45）年1月	成人棟（旧第3病棟）増築、生活訓練棟（旧第2病棟）改築 20床増床（病床120床）
1974（昭和49）年7月	託児所を開設、家族宿舍、医師宿舍を設置
1978（昭和53）年3月	秋津療育園内で歯科診療を開始
1980（昭和55）年4月	養護学校訪問学級開校、秋津療育園内で耳鼻科診療を開始
1983（昭和58）年3月	男子職員宿舍、母子室（親子宿泊設備）を設置
1988（昭和63）年12月	財団法人秋津療育園から社会福祉法人天童会に継承（12月15日）
1989（平成元）年1月	秋津療育園改築工事を開始
1991（平成3）年3月	秋津療育園改築工事第1期完了、旧建物取り壊しを開始
1992（平成4）年7月 8月	秋津療育園改築工事第2期完了、8床増床（病床135床） 秋津療育園通園センターを開設
1993（平成5）年1月	緊急一時保護、短期入所の事業を開始
1994（平成6）年3月	秋津療育園改築工事が完了、40床増床（病床175床）
1999（平成11）年5月	医療法改正に伴い、3病棟体制を4病棟体制に変更
2000（平成12）年4月	秋津療育園内に訪問学級高等部を開校
2004（平成16）年3月	秋津療育園の屋上防水・外壁補修塗装工事を施工
2006（平成18）年10月	児童福祉法改正に従い、入所事業に契約制度が開始
2008（平成20）年9月	創立50周年記念式典を実施
2010（平成22）年3月	託児所「こひつじ園」を移転
2012（平成24）年4月	法改正に伴い、医療型障害児入所施設（原則18歳未満）と療養介護事業の一体型運営に移行、通園は生活介護事業に移行
2013（平成25）年12月	秋津療育園相談支援センターを開設、特定相談支援事業を開始
2014（平成26）年4月	秋津療育園で障害者歯科外来診療を開始
2017（平成29）年4月	こひつじ園が託児所から事業所内保育事業（小規模A型）に移行
2018（平成30）年4月 11月	創立60周年記念事業として「地域支援事業準備室」を設置 秋津療育園相談支援センターで、障害児相談支援事業を開始
2019（令和元）年11月	創立60周年記念事業としてSLPセンターアーク新築工事を開始
2021（令和3）年1月	SLPセンターアーク新築工事が完了

2021（令和3）年3月	SLPセンターアーク内にアークこども相談センターを開設し、秋津療育園相談支援センターの障害児相談支援を移管
4月	同施設内にアークこどもクリニックを開設し、診療所の事業を開始
7月	同施設内に児童発達支援センターマイムを開設し、児童発達支援、居宅訪問型児童発達支援および保育所等訪問支援を開始
	SLPセンターアーク内に、こひつじ園を移転し、名称をエメット保育園に変更
	医師宿舎設置場所で、訪問看護ステーションあきつを開設し、訪問看護、介護予防訪問看護事業を開始
2023（令和5）年4月	エメット保育園が事業所内保育事業（小規模A型）から小規模保育A型に移行
2024（令和6）年3月	アークこどもクリニックを閉鎖し、事業を廃止
2025（令和7）年3月	訪問看護ステーションあきつを閉鎖し、事業を廃止

2. 役員状況

（1）評議員

2025(令和7)年3月31日時点

氏 名	
1 坂 卷 熙	6 杉 野 学
2 辰 島 清 江	7 緒 方 淳
3 太 田 和 男	8 分 須 隆 幸
4 野 田 数	9 工 藤 満 生
5 吉 岡 恵 生	10 西 山 史 洋

（2）理事・監事

2025(令和7)年3月31日時点

氏名（理事）	氏名（監事）
1 大 石 勉 （理事長）	1 田 中 弘 樹
2 栗 田 昌 宗 （常務理事）	2 安 沢 勝 秀
3 小野寺 隆	
4 下 山 直 人	
5 児 玉 和 夫	
6 山 本 一 郎	
7 田 添 敦 孝	

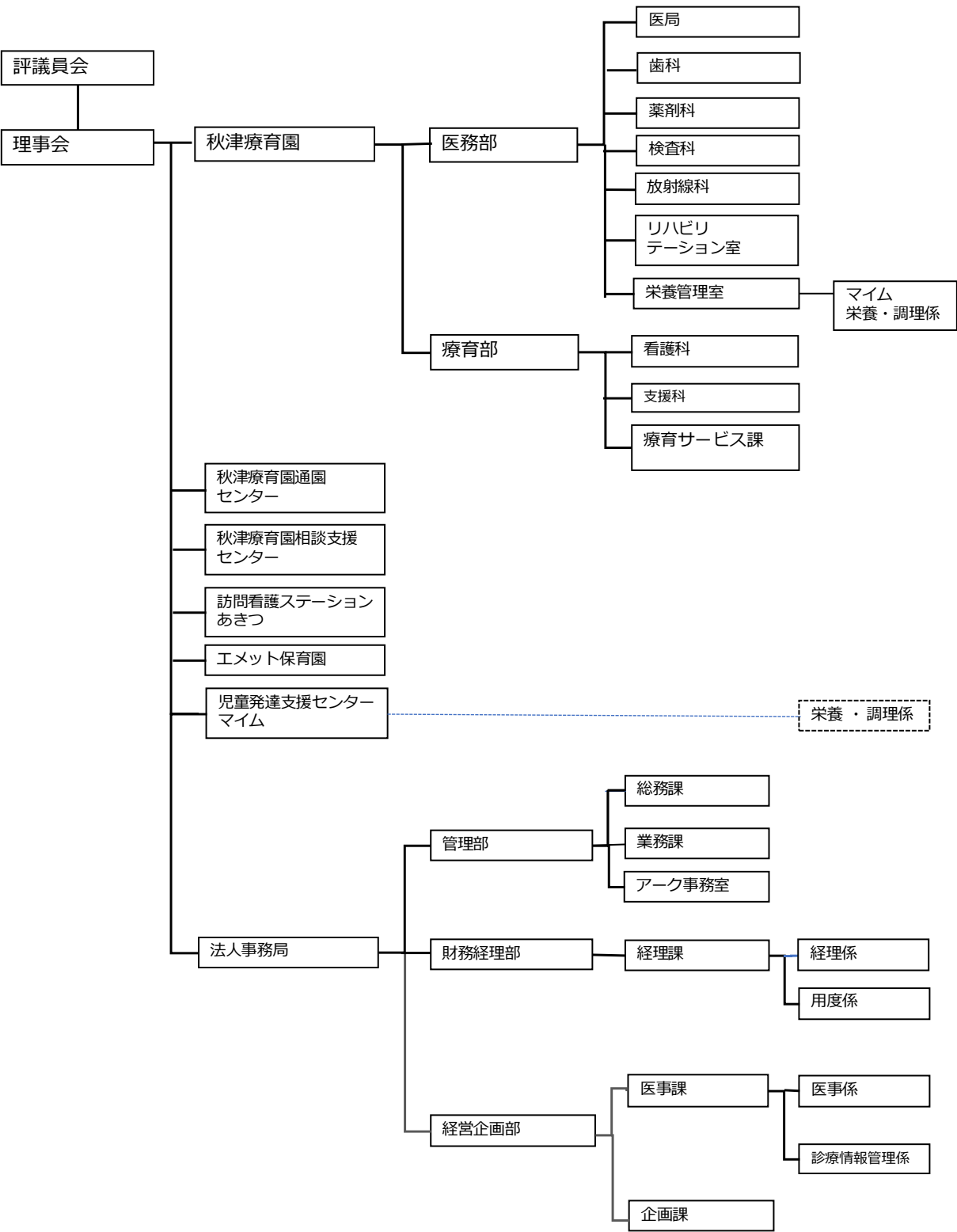
（3）従業員

2025(令和7)年3月31日時点における法人全体の総数は356名であり、内訳は以下のとおりである。

- 1) 秋津療育園 296名
- 2) 秋津療育園通園センター 12名
- 3) 秋津療育園相談支援センター 5名
- 4) エメット保育園 11名
- 5) 児童発達支援センターマイム 32名

3. 組織

令和7年3月31日時点



4. 決算

第一号第一様式（第十七条第四項関係）

法人単位資金収支計算書

（自）令和 6年 4月 1日（至）令和 7年 3月31日

（単位：円）

勘 定 科 目			予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
事業活動による収支	収入	児童福祉事業収入	13,067,000	13,002,012	64,988
		保育事業収入	55,325,000	62,813,920	-7,488,920
		障害福祉サービス等事業収入	1,193,413,000	1,213,359,856	-19,946,856
		医療事業収入	1,343,721,000	1,337,907,681	5,813,319
		経常経費寄附金収入	15,322,000	15,738,706	-416,706
		受取利息配当金収入	23,985,000	21,393,385	2,591,615
		その他の収入	9,969,000	9,091,837	877,163
	事業活動収入計(1)		2,654,802,000	2,673,307,397	-18,505,397
	支出	人件費支出	2,064,038,000	2,062,977,443	1,060,557
		事業費支出	362,422,000	354,013,450	8,408,550
事務費支出		184,692,000	185,181,310	-489,310	
事業活動支出計(2)		2,611,152,000	2,602,172,203	8,979,797	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)			43,650,000	71,135,194	-27,485,194
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入		3,416,000	-3,416,000
		固定資産売却収入		80,000	-80,000
		施設整備等収入計(4)		3,496,000	-3,496,000
	支出	固定資産取得支出	16,567,000	17,786,272	-1,219,272
		その他の施設整備等による支出		69,000	-69,000
施設整備等支出計(5)		16,567,000	17,855,272	-1,288,272	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)			-16,567,000	-14,359,272	-2,207,728
その他の活動による収支	収入	投資有価証券売却収入		6,135,746	-6,135,746
		その他の活動による収入	6,291,000	6,146,731	144,269
		その他の活動収入計(7)		6,291,000	12,282,477
	支出	投資有価証券取得支出		21,756,000	-21,756,000
		積立資産支出		5,876,259	-5,876,259
		その他の活動による支出	106,000	79,760	26,240
	その他の活動支出計(8)		106,000	27,712,019	-27,606,019
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)			6,185,000	-15,429,542	21,614,542
予備費支出(10)				—	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)			33,268,000	41,346,380	-8,078,380
前期末支払資金残高(12)			1,147,104,769	1,147,104,769	
当期末支払資金残高(11)+(12)			1,180,372,769	1,188,451,149	-8,078,380

法人単位事業活動計算書

（自）令和 6年 4月 1日（至）令和 7年 3月31日

（単位：円）

勘 定 科 目			当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A) - (B)
サ ー ビ ス 活 動 増 減 の 部	収 益	介護保険事業収益		3,621,406	-3,621,406
		児童福祉事業収益	13,002,012	10,635,588	2,366,424
		保育事業収益	62,813,920	55,965,444	6,848,476
		障害福祉サービス等事業収益	1,213,359,856	1,076,676,957	136,682,899
		医療事業収益	1,337,907,681	1,366,461,899	-28,554,218
		経常経費寄附金収益	15,738,706	6,624,402	9,114,304
		その他の収益	8,681,310	6,543,670	2,137,640
	サービス活動収益計(1)		2,651,503,485	2,526,529,366	124,974,119
	費 用	人件費	2,051,612,960	1,956,517,422	95,095,538
		事業費	354,013,450	353,460,030	553,420
		事務費	185,181,310	174,028,471	11,152,839
		減価償却費	164,256,535	164,827,306	-570,771
		国庫補助金等特別積立金取崩額	-61,468,481	-61,189,303	-279,178
		サービス活動費用計(2)	2,693,595,774	2,587,643,926	105,951,848
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		-42,092,289	-61,114,560	19,022,271
サ ー ビ ス 活 動 外 増 減 の 部	収 益	受取利息配当金収益	24,922,964	23,891,103	1,031,861
		その他のサービス活動外収益	6,557,258	5,030,105	1,527,153
		サービス活動外収益計(4)	31,480,222	28,921,208	2,559,014
	費 用	その他のサービス活動外費用	79,760		79,760
		サービス活動外費用計(5)	79,760		79,760
		サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	31,400,462	28,921,208	2,479,254
経常増減差額(7)=(3)+(6)		-10,691,827	-32,193,352	21,501,525	
特 別 増 減 の 部	収 益	施設整備等補助金収益	3,416,000	5,000,000	-1,584,000
		固定資産売却益	79,999	2,899,999	-2,820,000
		特別収益計(8)	3,495,999	7,899,999	-4,404,000
	費 用	固定資産売却損・処分損	103,547	1	103,546
		国庫補助金等特別積立金積立額	3,416,000		3,416,000
		特別費用計(9)	3,519,547	1	3,519,546
特別増減差額(10)=(8)-(9)		-23,548	7,899,998	-7,923,546	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		-10,715,375	-24,293,354	13,577,979	
繰 越 活 動 増 減 差 額 の 部	前期繰越活動増減差額(12)		516,651,518	540,944,872	-24,293,354
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)		505,936,143	516,651,518	-10,715,375
	基本金取崩額(14)				
	その他の積立金取崩額(15)				
	その他の積立金額(16)				
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)		505,936,143	516,651,518	-10,715,375

法人単位貸借対照表

令和 7年 3月31日現在

（単位：円）

資 産 の 部				負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減		当年度末	前年度末	増 減
流動資産	1, 284, 969, 991	1, 239, 175, 543	45, 794, 448	流動負債	267, 111, 896	279, 904, 570	-12, 792, 674
現金預金	846, 524, 928	825, 748, 553	20, 776, 375	事業未払金	69, 250, 987	82, 053, 417	-12, 802, 430
有価証券	6, 135, 746	1, 216, 244	4, 919, 502	未払費用	3, 772, 255	1, 912, 751	1, 859, 504
事業未収金	395, 607, 732	385, 779, 502	9, 828, 230	預り金	20, 222	25, 612	-5, 390
未収補助金	28, 689, 472	24, 198, 198	4, 491, 274	職員預り金	23, 475, 378	8, 078, 994	15, 396, 384
立替金	106, 071		106, 071	賞与引当金	170, 593, 054	187, 833, 796	-17, 240, 742
前払金	4, 333, 333		4, 333, 333	固定負債	69, 101, 959	63, 225, 700	5, 876, 259
前払費用	3, 572, 709	2, 233, 046	1, 339, 663	退職給付引当金	69, 101, 959	63, 225, 700	5, 876, 259
固定資産	8, 334, 564, 503	8, 456, 043, 222	-121, 478, 719	負債の部合計	336, 213, 855	343, 130, 270	-6, 916, 415
基本財産	3, 682, 560, 164	3, 795, 710, 326	-113, 150, 162	純 資 産 の 部			
土地	2, 210, 809, 008	2, 210, 809, 008		基本金	4, 384, 857, 288	4, 384, 857, 288	
建物	1, 471, 751, 156	1, 584, 901, 318	-113, 150, 162	基本金	4, 384, 857, 288	4, 384, 857, 288	
その他の固定資産	4, 652, 004, 339	4, 660, 332, 896	-8, 328, 557	国庫補助金等特別積立金	587, 423, 474	645, 475, 955	-58, 052, 481
土地	525, 652, 820	525, 652, 820		国庫補助金等特別積立金	587, 423, 474	645, 475, 955	-58, 052, 481
建物	109, 805, 010	117, 064, 770	-7, 259, 760	その他の積立金	3, 805, 103, 734	3, 805, 103, 734	
構築物	24, 403, 308	27, 817, 799	-3, 414, 491	施設整備積立金	3, 739, 636, 950	3, 739, 636, 950	
車両運搬具	4, 139, 369	2, 353, 997	1, 785, 372	修繕積立金	65, 466, 784	65, 466, 784	
器具及び備品	80, 030, 518	101, 733, 033	-21, 702, 515	次期繰越活動増減差額	505, 936, 143	516, 651, 518	-10, 715, 375
権利	1, 175, 000	1, 175, 000		次期繰越活動増減差額	505, 936, 143	516, 651, 518	-10, 715, 375
ソフトウェア	6, 694, 985	9, 527, 240	-2, 832, 255	（うち当期活動増減差額）	-10, 715, 375	-24, 293, 354	13, 577, 979
投資有価証券	25, 678, 636	6, 528, 803	19, 149, 833				
退職給付引当資産	69, 101, 959	63, 225, 700	5, 876, 259				
施設整備積立資産	3, 739, 636, 950	3, 739, 636, 950					
修繕積立資産	65, 466, 784	65, 466, 784					
差入保証金	219, 000	150, 000	69, 000	純資産の部合計	9, 283, 320, 639	9, 352, 088, 495	-68, 767, 856
資産の部合計	9, 619, 534, 494	9, 695, 218, 765	-75, 684, 271	負債及び純資産の部合計	9, 619, 534, 494	9, 695, 218, 765	-75, 684, 271

Ⅱ 秋津療育園概要

Ⅱ 秋津療育園概要

1. 創設経緯

創設者草野熊吉が、キリスト教の精神に拠って、当時、児童福祉法、医療法、教育基本法などのあらゆる福祉の谷間におかれた重症児（重度重複障害児）のために、福祉の楽園を願い同志の協力を得て施設を創設した。

2. 施設概要

1) 名称 : 秋津療育園

2) 所在地 : 東京都東村山市青葉町三丁目31番地 1

3) 開設年月日 : 1958(昭和33)年11月20日

4) 施設の規模

①敷地面積 : 8,936.42 m² ②建築面積 : 3,413.15 m² ③延床面積 : 9,342.01 m²

5) 建物構造

①管理棟 : 鉄筋コンクリートラーメン構造 地下2階・地上2階・塔屋1階

②第1療育棟 : 鉄骨構造 地上2階

③第2療育棟 : 鉄筋コンクリートラーメン構造 地下1階・地上4階・塔屋1階

6) サービスの種類

①医療型障害児入所施設

②療養介護

③短期入所

7) 許可病床数

178床（長期入所175床、短期入所、医療入院用3床）

8) 歴代園長

氏名	期間
1 岡野喜久子	1958（昭和33）年11月 ～ 1961（昭和36）年7月
2 宇野重雄	1961（昭和36）年7月 ～ 1962（昭和37）年8月
3 芹沢美之	1962（昭和37）年8月 ～ 1982（昭和57）年9月
4 大島一良	1982（昭和57）年9月 ～ 1993（平成5）年1月
5 田中明	1993（平成5）年1月 ～ 1999（平成11）年9月
6 沼田正廣（園長代行）	1999（平成11）年9月 ～ 2000（平成12）年3月
7 村田篤司	2000（平成12）年4月 ～ 2012（平成24）年3月
8 白井徳満	2012（平成24）年4月 ～ 2020（令和2）年3月
9 大石勉	2020（令和2）年4月 ～ 2024（令和6）年6月
10 原田正平	2024（令和6）年7月 ～ 現在

3. 入所者の状況

2025(令和7)年3月31日現在

1) 入所児者数

(単位：人)

棟 / 人数	定床	短期	現在数	男	女	超重症児	準超重症児
第1病棟	51	1	50	28	22	17	23
第2病棟	55	1	54	28	26	0	6
第3病棟	40	0	40	22	18	0	5
第4病棟	29	1	27	15	12	0	11
計	175	3	171	93	78	18	45

2) 年齢別在籍数

棟 / 年齢	0～	10～	18～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	平均	年少	年長
第1病棟	1	6	0	7	6	11	12	3	4	42.3歳	3歳	79歳
第2病棟	0	0	0	1	4	10	14	18	7	55.9歳	22歳	76歳
第3病棟	0	2	2	1	3	7	6	13	10	58.8歳	38歳	80歳
第4病棟	1	1	1	1	1	6	4	10	2	51.2歳	4歳	76歳
計	2	7	1	10	14	34	36	44	23	52.0歳		

3) 大島分類による入所状況

IQ

21	22	23	24	25	70
20	13	14	15	16	50
19	12	7	8	9 <u>2人</u> 3病棟 2人	35
18	11	6 <u>2人</u> 3病棟 2人 4病棟 1人	3 <u>6人</u> 3病棟 5人 4病棟 1人	4 <u>11人</u> 1病棟 1人 3病棟 9人 4病棟 1人	20
17 <u>2人</u> 4病棟 2人	10 <u>6人</u> 4病棟 7人	5 <u>2人</u> 2病棟 1人 4病棟 1人	2 <u>45人</u> 1病棟 7人 2病棟 22人 3病棟 7人 4病棟 9人	1 <u>95人</u> 1病棟 42人 2病棟 31人 3病棟 16人 4病棟 6人	0
はしれる	あるける	歩行障害	すわれる	ねたきり	

4) ADL<日常生活動作>の状況

(単位：人)

項 目		第1病棟	第2病棟	第3病棟	第4病棟	合計
移動	移動できない	39	24	17	8	88
	寝返り他の移動	7	19	15	6	47
	手足移動	2	6	8	1	17
	ささえ歩き	2	5	0	3	10
	独歩	0	0	0	9	9
言語	話せない	44	36	8	22	110
	言語理解可能	4	8	19	11	32
	単語を話す	1	7	5	3	16
	二語文を話す	0	3	5	1	9
	会話ができる	1	0	3	0	4
摂食	全介助	47	34	20	14	115
	(内、経管栄養のみ)	29	3	2	9	43
	(内、経管・経口併用)	14	4	3	2	23
	手で食べる	0	5	4	1	10
	一部介助を要す	3	11	8	10	32
	スプーンで食べる	0	3	5	2	10
	箸で食べる	0	1	3	0	4
排泄	オムツ使用	48	50	23	22	143
	時間で誘導する	1	2	2	3	8
	事前に知らせる	1	1	8	1	11
	一部介助を要す	0	1	7	1	9
	一人でできる	0	0	0	0	0
被服着脱	全介助	46	36	21	12	115
	着脱に協力する	4	13	10	11	38
	脱衣可能・着衣不可	0	3	3	2	8
	一部介助を要す	0	2	4	2	8
	一人でできる	0	0	2	0	2

5) 在園年数状況

	5年未満	5年以上	10年～	20年～	30年～	40年～	50年～	60年～	平均在園年数
第1病棟	8人	8人	9人	6人	9人	3人	6人	1人	23.7年
第2病棟	7人	2人	5人	3人	12人	7人	13人	5人	35.0年
第3病棟	5人	1人	5人	2人	11人	1人	9人	6人	35.8年
第4病棟	8人	0人	1人	2人	6人	2人	5人	3人	30.5年
計	28人	11人	20人	13人	38人	13人	33人	15人	31.3年

III 事業報告

Ⅲ 事業報告

医 務 部

1. 医務部の方針

医務部は医局（内科・小児科・精神科・耳鼻咽喉科）、歯科、薬剤科、検査科、放射線科、リハビリテーション室、栄養管理室で構成されている。合併症の治療に努めながら、健康・栄養管理を適切に行い、ADL、QOLを向上させ、充実した生活を提供することを方針としている。

2. 耳鼻咽喉科

毎月第2・第4水曜日に診療を実施している。本年度も標準予防策を徹底し、病棟間の接触を最小化する体制で診療を継続した。

2024年度耳鼻科月別・病棟別受診人数、診療件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受診人数	第1病棟	14	11	6	6	6	11	6	14	12	0	13	13	112
	第2病棟	16	12	7	14	6	13	0	5	13	0	12	14	112
	第3病棟	10	5	6	10	5	12	6	0	12	0	0	6	72
	第4病棟	8	10	5	11	0	10	5	13	10	0	10	10	92
	合計(人)	48	38	24	41	17	46	17	32	47	0	35	43	388
実施内容・処置	検診	33	32	20	30	13	41	14	27	39	0	29	31	309
	耳処置	3	1	2	4	1	2	2	0	0	0	0	0	15
	耳垢除去	44	36	21	27	16	42	15	32	45	0	35	42	365
	鼻処置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻ネブライザー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	耳通気	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼓膜マッサージ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	咽頭ファイバー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3. 放射線科

毎週火曜、金曜日にレントゲン撮影、超音波検査を行っている。実績は以下の通りである。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
照射録数	44	40	57	50	44	32	44	43	57	46	34	40	531
超音波検査件数	9	9	14	17	7	18	10	9	10	7	11	10	131

4. 薬剤科

新型コロナウイルス感染症治療薬（当園採用：ゾコーバ、ラゲブリオ、ベクルリー）は、すべて公費負担が終了した。同様にワクチンについても一部を除き補助が終了したが、希望者に対して第8回目の接種を実施した（利用者：コミナティ筋注シリンジ、職員：ダイチロナ筋注）。併せて、ダイチロナ筋注の使用成績調査にも協力した。

2024(令和6)年4月から新たに調剤支援システムを導入し、アレルギーや禁忌薬の有無、薬歴、自動分包、散薬監査、定時処方箋・薬袋ラベル・お薬手帳の発行の一元管理が可能となり、定時処方箋の書式を大幅に変更した。

薬事委員会は2024年度(令和6年度)3回開催され（5月、10月（臨時）、11月）、新規採用薬の検討に加え、「調剤分包品・外用薬の開封後の使用期限の取り決め」や「法律に準拠した医薬品の取り扱いの整備」などを行い、併せて年2回「薬品在庫一覧」の改訂と「薬局からのお知らせ」を発行した。10月からは長期収載品における選定療養が開始され、医薬品の出荷調整がさらに頻発し、その対応に追われた。

月別処方箋枚数、調剤件数

検査項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処方箋枚数	定期薬	718	735	704	715	710	712	749	723	744	739	671	743
	臨時薬	456	547	562	543	474	487	516	471	542	409	443	422
	職員	16	23	19	14	23	14	15	14	29	29	19	23
	注射	62	115	50	49	65	120	61	110	142	61	68	53
	合計	1,252	1,420	1,335	1,321	1,272	1,333	1,341	1,318	1,457	1,238	1,201	1,241
	1日平均	42	46	45	43	42	44	43	44	47	40	43	40
調剤件数	定期薬	3,346	3,232	3,149	3,343	3,294	3,363	3,510	3,535	3,736	3,560	3,360	3,751
	臨時薬	564	677	694	670	696	638	1,349	552	667	497	522	481
	職員	34	48	30	30	50	27	36	30	60	54	45	58
	注射	129	234	96	94	124	202	143	186	240	101	120	108
	合計	4,073	4,191	3,969	4,137	4,164	4,230	5,038	4,303	4,703	4,212	4,047	4,398
	1日平均	136	135	132	133	139	141	163	143	152	136	145	142
全調剤数		51,465（昨年度より2,808件増）											

＜備考＞ ※歯科・耳鼻科・通園は臨時薬に含まれている

5. 歯科

2023 年度（以下、昨年度）に引き続き、新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）やその他感染症の蔓延により、診療病棟を制限し、感染予防策を徹底しながら診療を継続した。

2024 年度（以下、本年度）は病棟閉鎖や新型コロナ疑い事例が発生し、該当病棟での診療を中止する事例が昨年度よりも多くみられた。

診療が可能な場合には、通常に近づけるよう診療人数を増やして実施した。

病棟職員のガウンテクニックは解除されたが、デンタルスタッフは昨年度同様、サージカルキャップ、ゴーグル、医療用マスク、フェイスシールド、サージカルガウンを装着し、完全防備で診療を行った。併せて、3 年前に導入した天井取り付け型の医療用空気清浄機および口腔外バキュームを使用した。診療終了後には、診療室内の消毒を徹底した。

通園の歯科検診および外来診療は現在も中止している。ただし、問い合わせ、電話相談、メール相談にはその都度対応した。

2024 年度月別歯科診療実績

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
受診人数		50	37	40	60	41	47	49	24	51	53	33	22	507
実施内容	検診及び	50	37	40	60	41	47	49	24	51	53	33	22	507
	予防治療													
	抜歯	1	0	0	0	0	1	0	0	1	5	0	3	11
	処置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※この表には、通園の歯科検診、並びに歯科衛生士によるブラッシング指導は含まれない

6. 検査科

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の流行が繰り返され、多忙を極める状況が続いた。そのため、生産性向上を目的に 2025(令和 7)年度の稼働を目途に科内システムの新規導入が決定し、導入に向けて複数メーカーとの交渉を行い、選定後はメーカーと協議を重ね準備を進めた。

月別・項目別検査件数

(単位：件)

検査項目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
血算・血液像 赤沈血液ガス	65	103	133	112	69	95	43	106	147	114	84	70	1,141
生化学的検査	705	1,961	2,022	1,738	1,081	1,284	555	2,013	2,239	1,584	1,257	841	17,280
心電図検査	1	0	0	2	3	0	1	2	0	0	0	0	9
尿・一般検査	23	42	58	54	24	34	26	43	53	44	26	16	443
感染症 迅速検査	118	111	232	130	108	132	109	43	53	65	107	50	1,258
院内 遺伝子核酸 増幅法 LAMP 法 (COVID-19)	25	41	40	115	206	70	139	234	14	37	7	1	929
院内 遺伝子核酸 増幅法 NEAR 法 (COVID-19)	26	49	48	106	165	124	183	202	61	68	38	33	1,103
感染症微生物検査 (培養検査：外注)	18	14	20	16	9	18	19	18	23	21	12	13	201
外注検査	47	121	56	71	80	51	84	169	37	34	41	21	812
月別合計	1,028	2,442	2,609	2,344	1,745	1,808	1,159	2,830	2,627	1,967	1,572	1,045	23,176

7. リハビリテーション室

感染対策を徹底するため、昨年度と同様に一部の職員を除き原則病棟ごとの専従制とし、リハビリテーション医の指示の下で利用者の身体的・精神的状況に合わせて訓練内容を適宜変更しながら実施した。さらに、個別訓練だけでなく日中活動の支援として、日常生活における姿勢や運動の提案、少人数による作業活動も行った。

一方で、利用者の高齢化に加えて体調不良や病棟閉鎖などにより安静を余儀なくされる期間が生じることで、関節の可動性や筋肉の柔軟性、持久力の低下が多くの利用者で認められた。訓練の再開によって回復していく利用者もいるものの、回復のスピードは遅く、十分に回復しきれないうちに次の安静期間が生じることで機能低下が加速する場合もあった。その結果、通常の介助や本人の動きによっても骨折を招く利用者も見られたため、骨折後の機能回復や対応策を検討し、病棟と積極的に情報共有することで再発防止に努めた。加えて、直接利用者に関わるスタッフに向けた勉強会の機会を設け、講師として体の動かし方やトランスファー、骨折のメカニズムなどの専門知識を共有し、現場での安全な支援につなげた。

車椅子などの補装具や日常生活用具については、製作業務従事職員（中堅以上）4名にて新規製作10件、修理12件、製作・修理中24件であった。

実績

① 病棟別

(単位：件)

病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
第1病棟	336	365	371	217	330	284	352	314	324	293	281	268	3,735
第2病棟	154	256	22	300	189	197	93	59	216	181	278	215	2,160
第3病棟	236	198	196	202	207	161	231	49	229	245	75	157	2,186
第4病棟	164	252	255	238	176	157	147	141	126	167	141	88	2,052
合計	890	1,071	844	957	902	799	823	563	895	886	775	728	10,133

② 職種別

(単位：件)

職種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学療法	503	628	519	464	447	365	392	341	360	371	361	322	5,073
作業療法	234	275	178	325	310	283	268	92	367	348	294	334	3,308
言語聴覚療法	153	168	147	168	145	151	163	130	168	167	120	72	1,752
合計	890	1,071	844	957	902	799	823	563	895	886	775	728	10,133

③ 疾患別

(単位：件)

疾患別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳血管リハ	869	1051	823	927	877	793	803	558	887	879	763	724	9,954
障害児リハ	21	20	21	30	25	6	20	5	8	7	12	4	179
合計	890	1,071	844	957	902	799	823	563	895	886	775	728	10,133

※病棟閉鎖により、介入できない期間や年度途中で在籍スタッフの状況に変更があった

8. 栄養管理室

1) 利用者の栄養管理

食事の種類

- ① 栄養量は、No.1 からNo.8 までの8段階の区分(2014(平成26)年7月1日より)
- ② 主食は、御飯・粥・パン粥・ペースト粥
- ③ 副菜は、常食・軟菜食・すりつぶし食・特すり食(2013(平成25)年10月1日より)・特別食

2) 給食数

① 利用者給食数と食事形態別

(単位:人)

	常食	軟菜食	すりつぶし食	特すり食 (特別食)	治療食	流動食	合計
4月	12	31	56	5	1	62	167
5月	12	30	54	5	1	63	165
6月	12	28	54	5	1	63	163
7月	13	30	53	4	1	65	166
8月	12	29	52	5	1	68	167
9月	13	30	53	5	1	64	166
10月	13	31	54	5	1	63	167
11月	11	30	49	4	1	71	166
12月	13	31	54	5	1	63	167
1月	12	30	55	5	1	63	166
2月	12	31	55	5	1	63	167
3月	11	32	56	5	1	62	167
合計	146	363	645	58	12	770	1,994

② 職員・通園センター食数(1日平均の食数)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
職員(朝食)	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1	2	1	1
職員(昼食)	97	95	96	97	90	94	88	94	93	89	93	89	93
職員(夕食)	14	14	16	15	15	16	15	11	16	15	13	14	14
通園センター	9	8	10	8	9	9	9	9	8	8	9	9	9
合計	122	118	123	121	115	120	113	115	118	113	116	113	117

3) 給食委員会の報告

月	討議内容	栄養指導
4 月	委員会要望書、間食申し込み	給食委員会規約、年間業務
5 月	選択メニュー デザートバイキング日程とメニュー	朝ごはんを食べて 体内のリズムを整える
6 月	デザート・昼食バイキング概要 とろみ・訓練皿	梅の効能 食中毒について
7 月	昼食バイキング日程、要望書 希望献立、行事食	家庭での食中毒
8 月	病棟と意見交換 昼食バイキング	熱中症予防
9 月	昼食バイキング 選択メニュー、要望書	防災の日 食品の備蓄
10 月	昼食バイキング 選択メニュー、要望書	たんぱく質について
11 月	昼食バイキング配膳方法 クリスマス、非常食	ノロウイルスの感染を広げないために
12 月	行事食の日程、バイキング 選択メニュー	12 月の行事食
1 月	病棟と意見交換 昼食バイキング、希望献立用紙	バランスがとれた食事 で ダイエット
2 月	次年度バイキング 間食申し込み、バレンタイン	冬を楽しむ 上手な過ごし方
3 月	バイキング 来年度検討事項、要望書	季節の変わり目 体調を崩さないために

4) 特別メニュー・献立

① メニュー

メニュー	内容																								
行事食	利用者の年間行事食は下記献立表を提供した。 この他に、月 1 回の「誕生会」はおやつがショートケーキ、昼食、夕食に行事食を実施した。 季節行事食(栄養管理室独自の名称)は、誕生会以外の日に実施した。																								
郷土料理	各地方風土が作り出した独特のもので、材料の切り方や食べ頃の温度が大切である。月に一回実施した。																								
世界の 家庭料理	世界各国の家庭料理を食べやすくアレンジして月に一食分を実施した。 <table><tr><td>4 月</td><td>イタリア料理</td><td>10月</td><td>スペイン料理</td></tr><tr><td>5 月</td><td>韓国料理</td><td>11月</td><td>アメリカ料理</td></tr><tr><td>6 月</td><td>ロシア料理</td><td>12月</td><td>日本料理</td></tr><tr><td>7 月</td><td>イタリア料理</td><td>1 月</td><td>イタリア料理</td></tr><tr><td>8 月</td><td>中国料理</td><td>2 月</td><td>日本料理</td></tr><tr><td>9 月</td><td>フランス料理</td><td>3 月</td><td>イギリス料理</td></tr></table>	4 月	イタリア料理	10月	スペイン料理	5 月	韓国料理	11月	アメリカ料理	6 月	ロシア料理	12月	日本料理	7 月	イタリア料理	1 月	イタリア料理	8 月	中国料理	2 月	日本料理	9 月	フランス料理	3 月	イギリス料理
4 月	イタリア料理	10月	スペイン料理																						
5 月	韓国料理	11月	アメリカ料理																						
6 月	ロシア料理	12月	日本料理																						
7 月	イタリア料理	1 月	イタリア料理																						
8 月	中国料理	2 月	日本料理																						
9 月	フランス料理	3 月	イギリス料理																						

② 献立

月	行事	献立
4月	季節行事食	昼 あんバターサンド、ミルクティー、春野菜のチーズコロッツ、香りサラダ、もの二色ムース
		夕 ナシゴレン風、清汁、えびのかぶかま煮、ごま和え
	郷土料理	小田巻蒸し(大阪)
5月	季節行事食	昼 魚のソテー(鯉のぼり風)、彩りサラダ、菱形三色ゼリー
		夕 御飯、味噌汁、お肉でカブト、田舎煮風、青梗菜と花麩の味噌和え
	郷土料理	石狩鍋風スープ(北海道)
6月	季節行事食	昼 黒糖パン、牛乳、鶏肉の梅しそチーズ巻き、野菜とトマトの焼きマリネ、キャベツとかにかまぼこのサラダ
		夕 御飯、味噌汁、鯔の香草焼き、じゃが芋マスタード炒め、ひじきの和風和え物
	郷土料理	ごった煮
7月	季節行事食	昼 黒糖パン、牛乳、夏野菜グラタン、トマトとツナ和え物、七夕ゼリー
		夕 鮭茶漬、味噌汁、生揚げのはさみ煮、かぼちゃの中華風
	郷土料理	だご汁(熊本)
8月	季節行事食	昼 ミルクパン、牛乳、豆腐でお好み焼き、じゃがバター、バナナクリーム
		夕 御飯、味噌汁、ハワイアンポーク、赤と白のなす田楽、セロリ梅和え

	郷土料理	ひやしる（山形）	
9月	季節行事食	昼	黒パン、牛乳、秋花ハンバーグ、焼き芋グラタン風、柿のフレンチサラダ
		夕	御飯、清汁、秋鮭味噌バター鍋、大根ソテーきのこ盛り、菊花と青菜和え
	郷土料理	筑前煮(福岡)	
10月	季節行事食	昼	ミルクパン、牛乳、豆腐ミートボールデミグラスソース、キャベツのガーリック炒め、アップルジンジャー
		夕	御飯、味噌汁、鯖のカツタルタルソース、秋茄子の煮浸し、白菜柚子和え
	郷土料理	むらくも丼	
11月	季節行事食	昼	黒パン、牛乳、ポテトオムレツ、青梗菜の中華クリーム煮、フレッシュフルーツ
		夕	御飯、味噌汁、豆腐のフライプロヴァンス風、海老とアボカドのブルスケッタ、柿と大根の塩サラダ
	創立記念日	きりたんぼ（秋田）	
	郷土料理	おやつ→創立記念 抹茶デザート、パインとベリー杏仁豆腐、紅茶	
12月	季節行事食	昼	黒パン、牛乳、サーモンのテリーヌ、温野菜みそマヨサラダ、かぶの冷菜
		夕	御飯、味噌汁、鶏団子の南瓜スープ煮、ブロッコリー雪見サラダ、根菜グラッセ
	クリスマス	昼	レーズンロール、牛乳、クリスマスリースハンバーグ、ポテトツリーサラダ、クリスマスデザート
		夕	ガーリックライス、コンソメスープ、ビーフストロガノフ、海鮮サラダ風
	郷土料理	ジンギスカン（北海道）	
1月	季節行事食	昼	ミルクパン、牛乳、錦糸卵和風あん、かぶときゅうりツナマヨサラダ、みかんミルクカルピス
		夕	御飯、味噌汁、明太子ポテトバーグ、南瓜きのこ金平、ゴマ味噌和え
	お正月	昼	黒糖パン、牛乳、魚のフライ紅白ソース、トマトときのこソテー、ミニパフェ
		夕	御飯、清汁、蒸鶏門松風、煮しめ、プチおせち、ゆず生酢
	郷土料理	キャベツの博多蒸し(福岡)	
2月	季節行事食	昼	コッペパン、牛乳、節分鬼ハンバーグ、かぶのソテー、チョコレートプリン
		夕	御飯、味噌汁、カラフル揚げ出し豆腐、梅のりナムル、カリフラワー新雪サラダ
	郷土料理	すいとん	
3月	季節行事食	昼	ミルクパン、牛乳、彩りクリームスピナッチ、淡雪チーズサラダ、春桃ムース
		夕	五目彩りちらし、清汁、桜の花びら盛り、菊花かぶのかにあんかけ、南瓜蒸煮
	郷土料理	源平生酢	

④ 選択メニュー

利用者が食べやすいよう食事形態に応じて調理を行った。丼物やパン類、主菜の新メニューを検討し、選択メニューの幅を拡大した。

昼食および夕食については、2種類のメニューから写真を見て好みを選択できる方式とし、希望に応じた食事を提供した。

日程	昼食選択メニュー	夕食選択メニュー
4月4日	1 鶏肉の黒酢ソース 2 蒸し鶏のネギソース	1 釜焼きビビンバ 2 オムライス デミグラスソース
5月26日	1 鮭と青菜のアーリオ・オーリオ風 2 白身魚の彩り揚げ	1 海鮮ドリア 2 クッパ
6月10日	1 手作りようかん 2 パンナコッタ カラメルソース	1 すき焼きハンバーグ 2 ハンバーグサルサソースかけ
7月20日	1 ラザニア 2 ミートボールグラタン	1 ビーフシチュー 2 オニオングラタンスープ
8月6日	1 洋梨のムース 2 冷やしぜんざい風	1 パエリア 2 冷汁
9月5日	1 卵サンドイッチ 2 エビマヨサンドイッチ	1 魚のアクアパッツァ風 2 魚の味噌マヨ焼き
10月11日	1 豆腐と鮭のグラタン風 2 麻婆豆腐	1 蟹入りあんかけチャーハン 2 ライスピザ
11月6日	1 クリームサンド フルーツ 2 クリームサンド チョコソース	1 サイコロステーキ和風おろし 2 さんま塩焼き
12月5日	1 南瓜のパンナコッタ 2 カフェオレムース	1 牛丼 2 ふわふわカツ丼
1月29日	1 八宝菜 2 鮭のバターホイル焼き	1 ミートローフお好み焼きソース 2 ミートローフコーンマヨソース
2月5日	1 鶏肉の煮込みカチャトーラ風 2 チーズダッカルビおろしソース	1 海鮮チーズリゾット 2 鯖漬け丼
3月6日	1 魚のテリーヌ 2 魚のタンドリー風カレー	1 煮込みハンバーグ 2 ミートボール トマト煮込み

5) 園外療育等

① 園外療育

第2、3、4病棟で計10回実施した。好きなお弁当を写真付きメニュー表の中から利用者が主食、おかずそれぞれ選んでもらい調理した。

主食	主菜
① 海鮮バターライス	① 照り焼きチキンあんず風味
② 五目チャーハン（チャーシュー入り）	② 鮭のムニエル 野菜ソース
③ ふわふわチーズオムライス	③ 鰯の照り焼き 生姜風味
④ 塩昆布と梅しそごはん	④ 煮込みハンバーグ きのこソース

② 園内宿泊

夕食配膳は、感染症予防のため実施しなかった。

6) 料理教室

第1、2、3病棟で計16回実施した。メニューは利用者を中心に病棟ごとに計画・調整した。

昨年度までは感染症予防のため栄養管理室職員と利用者の接触を控えていたが、本年度より再開した。取り組みは二つの形式で行った。第一に、病棟ごとに栄養管理室職員と利用者が一緒に調理を行う形式、第二に厨房内でスポンジケーキまたはムースを配膳し、利用者が各自でトッピングを行う形式である。

日程	病棟	形式	メニュー
4月 11日	第3病棟	参加型	チョコレートタルト、ミルクコーヒー
4月 18日	第2病棟	参加型	プリンアラモード、バナナミルクティー
5月 9日	第3病棟	参加型	こいのぼり風ホットケーキ、コーヒー
5月 20日	第2病棟	病棟配膳	ムースケーキ、ミルクティー
5月 25日	第1病棟	病棟配膳	ムースケーキ、ミルクティー
6月 13日	第2病棟	参加型	焼き餃子、桃の紅茶
6月 19日	第3病棟	参加型	スフレチーズケーキ、キャラメルミルクティー
7月 11日	第2病棟	参加型	たこ焼き、アップルティー
7月 17日	第3病棟	参加型	プリンアラモード、ミルクココア
9月 5日	第3病棟	参加型	クレームブリュレ、ミルクココア
9月 12日	第2病棟	参加型	黒蜜プリン、黒ゴマスムージー
10月 10日	第3病棟	参加型	チーズブリュレ
10月 14日	第2病棟	参加型	南瓜プディング、バナナキウイミルク
1月 8日	第1病棟	病棟配膳	スポンジケーキ、ムースケーキ、ミルクティー
2月 5日	第3病棟	参加型	プリンアラモード、ミルクココア
2月 13日	第2病棟	参加型	あんまん、さくらティー

7) バイキング食

①デザートバイキング

感染症予防のため、メニュー数を減らし配膳する形式で実施した。

病棟	日程	献立
第1病棟	7月23日	オレンジムース、桃とラズベリーのムース、やわらかたこ焼き オレンジジュース、グレープジュース
第2病棟	8月1日	オレンジチョコマーブル、二色団子、やわらかたこ焼き 紅茶
第3病棟	8月8日	オレンジチョコマーブル、なめらかコーヒープリン、すいかあんこ グレープジュース、ミルクティー
第4病棟	7月9日	オレンジムース、やわらかたこ焼き、青りんごムース グレープジュース、ミルクティー

②昼食バイキング

感染症予防のため、メニュー数を減らし配膳する形式で実施した。

病棟	日程	献立
第1病棟	11月22日	旬の炊き込み御飯、パン粥、お刺身盛り合わせ、BBQ ミートローフ、 フカヒレ風茶碗蒸し、豆腐のスンドゥブ風、じゃが芋明太マヨネーズ、 さつまいものポタージュ、チョコレートムース、オレンジジュース
第2病棟	11月14日	海鮮ちらし寿司、海老のチリマヨソース煮、やわらか角煮、 エッグベネディクト、フカヒレ風茶碗蒸し、ジーマミー豆腐、 野菜の彩りムース、さつまいものポタージュ、フレンチトースト、 イチゴムース、リンゴジュース
第3病棟	11月7日	握り寿司2種、お刺身盛り合わせ、チキン南蛮、フカヒレ風茶碗蒸し、 豆腐のスンドゥブ風、じゃが芋明太マヨネーズ、南瓜ポタージュ、 イチゴジェラート、グレープジュース
第4病棟	2月12日	海鮮ちらし寿司、白身魚のエスカページュ、やわらか角煮、 卵のチーズ茶巾風、ジーマミー豆腐、トマトのムース風、 さつまいもポタージュ、バナナチョコムース、紅茶

療育部

1. 理念

「私たちは、細やかな目と優しい手で、重症児・者の命を守り生活を支援し、安全・安心・安寧な生涯が送れるよう、チーム療育に努めます。」

2. 構成

療育部は、利用者の直接的処遇および療育全般を業務とする部署であり、看護科と支援科で構成されている。4つの病棟は障害者施設等入院基本料により区分され、第1病棟および第4病棟では「一般病床10対1」、第2病棟および第3病棟では「療養病床20対1」の配置基準を採用している。各病棟は看護科長および支援科長を中心とした管理体制をとり、利用者の医療と療育を実践している。

3. 活動方針

- 1) 利用者の生命と健康を守り、安全安寧な生活を送れるよう充実した医療ケアの提供に努める。
- 2) 利用者の個性とライフステージに応じた療育活動を通し、豊かな人生が送れる様援助する。
- 3) 職員の専門性を高めた人材育成に努め、活気ある療育チーム作りを目指す。
- 4) 御家族と共に個々の利用者の充実した人生を考え、各部署と協力し実現を目指す。

4. 感染状況について

新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の世界的流行から5年が経過した。2023年5月に新型コロナの分類が「2類相当」から「5類感染症」へ移行してから1年が経過した。2024年度（以下本年度）、秋津療育園（以下、当園）では新型コロナによる病棟閉鎖が5回発生した。感染率は依然として高いが、重症化率は低下し、治療薬の効果もあって重篤な症状を呈した利用者はなかった。本年度は感染状況を勘案しつつ、面会の拡大や外泊・外出支援を再開した。

1) 新型コロナの感染対策

- ①職員による感染症持ち込みを防止するため、就業前チェックおよび体調不良時の診察を常時実施し徹底した。
- ②体調不良の職員にはLAMP法およびNEAR法によるPCR検査を実施し、感染拡大を防止した。
- ③来園者に対して実施していた抗原検査は、9月をもって終了とした。ワクチン接種（第8回目）は希望する利用者および職員に実施し、利用者については12月から2月にかけて150人が接種した。

2) 新型コロナの発生状況

病棟	病棟閉鎖した期間	罹患者数	利用者の治療
第1病棟	7月10日～7月22日	利用者 1人 職員 7人	罹患者に新型コロナ治療薬（ゾコーバ or ラゲブリオ）投与
第4病棟	8月9日～9月5日	利用者 26人 職員 14人	
第2病棟	10月14日～11月7日	利用者 15人 職員 4人	
第3病棟	11月3日～11月27日	利用者 2人 職員 13人	
第2病棟	11月12日～11月26日	利用者 4人 職員 2人	

3) その他感染症

- ①RSウイルス感染症により、第3病棟は2025年2月6日から3月14日まで閉鎖となった。（利用者22人、職員2人が罹患した。）
- ②ヒトメタニューモウイルス、インフルエンザウイルス、溶連菌およびアデノウイルスの発症があったが拡大には至らなかった。

5. 利用者の状況について

1) 利用者の状況、ケアについて

利用者の中に呼吸器、消化器系に疾患を抱える方が増えており、それとは別に、個々の疾患にも対応することが求められる中、後見人の意向を踏まえ、専門医療機関と相談し治療方針を決めケアに当たった。より困難な事例においては、ACP委員会を開催し、合意形成を図って対応した。

療養病棟でも、当初想定されていなかった癌末期に対し緩和ケアと看取りや、外科的治療を受けた後の経過観察の治療を行った。

2) 入退所状況

全病棟の入退所の状況は、新規入所者7人（契約・措置）、死亡退所9人であった。

3) 面会、外泊の状況

本年度は新型コロナ感染症の流行減少と重症化率低下を受け、直接面会の制限を段階的に緩和した。

外泊については、5月に5年ぶりとなる月1回の実施を再開し、12月からは「1回につき最長2泊、月4泊まで」と拡大した。外泊の利用者は月平均5名であった。

面会については、本年5月までは月1回としていたが、6月からは月2回に変更し、12月には制限をなくした。

6. その他の状況について

1) 職員状況

①職員の入職

職員の入職状況は、中途採用者および非常勤を含め、看護科職員13人、支援科職員6人であった。

②人材確保の取組

看護学校を対象に就職説明会およびオンライン就職説明会の開催、大学生や看護学生の実習の受入れ、看護学生のインターンシップを実施した。

③EPA 職員の育成

2017(平成 29) 年 12 月に、EPA によるインドネシア国籍職員の受け入れを開始し、2024 年度末時点で 13 人が就労している。うち 8 人が介護福祉士国家資格を取得した。

(注) EPA とは経済連携協定に基づき、日本で介護福祉士取得を目指して就労する外国人を指す。

2) 面会、外泊の状況

本年度は新型コロナウイルスの流行減少と重症化率低下を受け、直接面会の制限を段階的に緩和した。

外泊については、5 月に 5 年ぶりとなる月 1 回の実施を再開し、12 月からは「1 回につき最長 2 泊、月 4 泊まで」と拡大した。外泊の利用者は月平均 5 名であった。

面会については、本年 5 月までは月 1 回としていたが、6 月からは月 2 回に変更し、12 月には制限をなくした。

3) 研修について

①外部研修

日本重症心身障害福祉協会、心身障害児総合医療センター、看護協会および東京都が主催する各種研修が開催され、新人看護師研修、看護師研修、看護管理研修等に当部各科から参加した。

②プロフェッショナルナース関連の研修

オンラインと対面を組み合わせた 1 年半のカリキュラムである「第 8 期生東京都プロフェッショナルナース育成研修」が本年度 6 月から開講し、療育部から 2 人が研修生として参加した。

2025 年 1 月には、「第 5 回プロフェッショナルナース育成研修修了生による実践報告会」が当園で開催され、東京都内 9 か所の重症心身障害児者施設から看護管理者、プロフェッショナルナース修了生の合計 58 人が参加した。

③施設内の研修

法令に基づき、感染予防・事故防止研修を 2 回、虐待防止・個人情報保護研修を 1 回実施した。職員が随時視聴できるよう録画配信を活用した。

4) その他の取り組み

①アンケート

全職員を対象に、「虐待の芽アンケート」を実施した

②相談窓口の設置

虐待防止・ハラスメント防止のための相談窓口を設置し、相談体制を強化した。

1. 療育部 第1病棟

1) 入退所の状況

本年度の入退所の状況は、新規入所者1人、死亡退所が1人であった。2025(令和7)年3月末時点で、超重症児(者)16人、準重症児(者)26人であった。

2) 利用者の状況

利用者の高齢化および重症化に伴い、新規疾患の罹患や同一症状を繰り返し治療困難になるケースが発生しており、高い医療処置が求められる割合が増えた。

3) 取組の状況

利用者に豊かな生活を提供することを目的に、個別活動、ライフステージに沿った活動(発達支援活動等)、少人数活動を軸とした取組を展開した。

①個別活動

個別活動については、短時間でも取り組めるよう活動の一覧化、マニュアル化、実施表の簡易化を行い実施した。医療度の高い利用者に対しては、同一体位による変形・拘縮予防や呼吸機能改善を目的として、車椅子乗車、腹臥位・側臥位での体位変換、筋緊張を和らげるマッサージを積極的に取り入れた。

②発達支援活動(たんぼぼくらぶ)

ライフステージに沿った活動の中核である発達支援活動については、実施後の振り返りや定期的な個別評価を重視し、利用者の特性を活かした継続的なアプローチを行い、利用者だけでなく特別支援学校の卒業生も受入れを実施した。

③少人数活動

きめ細かな個々の支援を行うため少人数で取り組みを実施した。

④お楽しみ会

病棟全体取り組みを行うお楽しみ会を毎月3回実施した。

⑤生活支援

居室単位で絵本の読み聞かせ、タブレットやBluetoothスピーカーを用いた音楽遊びや映像鑑賞、動機能の低下を防ぐための乗車訓練、心身をリフレッシュする外気浴、リモート面会を実施した。

5) 取組実績

① 発達支援活動

目標	個別設定・達成した時点で次段階へ移行
参加者	19 歳以下の 7 人
職員	保育士・リハビリテーション室職員
場所	第 1 病棟 プレイルーム
内容	① 始まりの挨拶（始まりの歌・呼名） くじ引きで呼名の順番を決める 返事をするまでの時間を設ける ② あそびうた（個別） 対象物を用いて、各々の目標とする動きを引き出す ③ あそびうた（グループ） 曲に合わせボディタッチ、他利用者との触れ合いを楽しむ。それぞれが注目される場面をつくる ④ 終わりの挨拶（終わりの歌）
まとめ	① 毎週土曜日に実施し、年間 41 回行った。 ② 新型コロナによる病棟閉鎖や、感染症拡大防止のため居室対応を余儀なくされた時期もあったが、活動を積み重ねてきた結果、再開時には利用者が普段どおりに参加することができた。 ③ 対象者の増加に伴い、職員数に応じて参加者数を調整し、柔軟に対応した。 ④ 本年度も利用者の体調面を考慮し、午前・午後の二部構成で実施した。 ⑤ 2023 年度(以下、昨年度)と同様、4 ヶ月ごとに利用者の状況を評価した。誰が見ても分かりやすいよう関数計算を用い、達成できている点と課題のある点を表に整理した。この評価表を基に職員間でアプローチ方法を検討・共有した結果、視線や手足の動きなど、目標に応じた反応を引き出すことができた。 ⑥ ポンパ（小児用クッションチェア）やクッションチェアを活用し、座位でのアプローチを組み合わせたことで、対象物に積極的に触れる場面が増加した。対象物や音楽は昨年度と同様のものを使用したが、触感の違いをより明確に感じられるよう、タオル地やナイロン製の素材を増やす工夫を行った。

② カレッジ活動

活動内容	社会科学部をテーマにした活動
活動目的	① さまざまな姿勢で活動に参加する中で自ら動く機会を作る ② 参加者が主体的に活動に参加し、学習する機会を作る ③ 同世代の仲間を意識し、集団の中で自己を表現する ④ 職員が利用者とはじり関わりあうことができる場を作る
学習目標	① 「切手を買うこと」を通してお金の使い方を学ぶ ② 「手紙を送ること」を通して郵便の仕組みを学ぶ

個人目標	個別設定 年度末に評価 達成したら、次段階へ設定・移行
参加者	7 人
参加職員	病棟支援科職員・リハビリテーション室職員
場所	第 1 病棟 プレイルーム
内容	1) 始まりの挨拶（校歌・呼名・目標の確認） ラジオ体操 活動内容の確認 2) 主な活動 ① 映像を観ながら郵便の仕組みを学ぶ) ② 教材やタブレットを使用し、手紙を描きながら個々の目標とする動きを引き出す ③ 切手を購入し自身で作った手紙をポストに投函する ④ 対象物を用いて各々の目標とする動きを引き出す 3) 終わりの挨拶 ① 目標の達成度を評価 ② 活動内容の写真や動画を見て自分の姿を見る
まとめ	① 参加者は、対象年齢に該当する利用者を各居室から選出し、新型コロナの予防対策を徹底した。 ② 月 1 回、年間 9 回実施した（7 月は感染症発生のため中止となった）。 ③ 太田ステージを用いて参加利用者の発達段階を評価し、個別に目標を設定した。 ④ 目標に対する達成度を数値化したところ、平均得点は 45 点中 42.8 点であった。参加回数や表出の有無により得点は変動するものの、概ね高評価であり、活動を通じて利用者の持つ能力を引き出すことができた。 ⑤ 授業は 2～3 人の少人数で実施したが、グループ数が増加したため、1 人あたり年間 3 回の参加となった。 ⑥ 利用者はいずれも自らの気持ちを表現するだけでなく、他の利用者の行動を静かに見守ったり褒めたりするなど、他者を意識した表出が多くみられた。中には、相談や助言を行うなど、自らの役割や関係性を意識した表出へと変化してきた利用者もいた。

③ 少人数活動

活動内容	リラクゼーション活動 スヌーズレン
目標	① 少人数の活動を楽しむ(活動を通してリラクゼーションを促す) ② ゆったりとした空間で穏やかな時間を過ごし、五感を刺激していく
参加者	42 人
場所	病棟内
	① 年間 16 回実施した。 ② プロジェクターを使用することで部屋全体に光が届き、どの方向からでも楽しむことができた。

まとめ	③ 本年度からはスライムや布を使用し、触覚への刺激を促した。感触を確かめるように自ら手を動かす利用者の様子もみられた。 ④ 使用する備品を1～2点に絞り、利用者の目線の高さで共に参加することで、表情や手指の動きなどに変化がみられた。
-----	--

④ リラクゼーション活動

活動内容	マッサージ
目標	① 少人数の活動を楽しむ(活動を通してリラクゼーションを促す) ② 参加者に合わせたマッサージを提供し、心身ともにリラックスした時間を過ごす ③ 落ち着いた空間の中で身体に触れリラックスを図る
参加者	22 人
場所	病棟内
まとめ	① 年間 9 回実施した。 ② 使用物品や映像、音楽を統一することで、準備時間を短縮することができた。 ③ 顔や頭部用のマッサージ器具を使用し、血行を促進した。

⑤ 音楽活動

活動内容	車椅子ダンス
目標	少人数の活動を楽しむ(参加者みんなで1つのことに取り組み、職員を介して他者とのかかわりを楽しむ) 車椅子ダンスを楽しむ リズムや音調を感じ取り、音楽・体の動きを楽しむ
参加者	34 人
場所	病棟内
まとめ	① 計 10 回実施した。 ② ダンスの動作を簡素化することで、参加した利用者の様子に応じて無理なく取り組めるよう配慮した。 ③ 酸素を使用している利用者が参加する際には、曲に合わせて車椅子を動かすことが困難であるため、トーンチャイムを用いた音楽遊びへ変更し実施した。

⑥ 音楽あそび

活動内容	音楽あそび
目標	① 少人数の活動を楽しむ(皆で1つのことに取り組み、職員を介して他者とのかかわりを楽しむ) ② リズムを身体で感じる ③ 職員との触れ合いの中で心地良い繋がりを感じリラックスする ④ 音楽の楽しさに触れる
参加者	22 人

場所	病棟内
まとめ	① 計 12 回実施した。 ② 開始時に曲と手遊びの動きを紹介してから取り組むことで、活動を円滑に進めることができた。 ③ タッピングにより楽しい雰囲気を醸成し、最後に照明を暗くして変化を与えたことで、利用者にリラックスした表情が多く見られた。

⑦ 体験活動

活動内容	ドライブ
目標	① 少人数の活動を楽しむ(皆で 1 つのことに取り組み職員を介して他者とのかかわりを楽しむ) ② 外の景色を眺め、バスの揺れを感じながらドライブを楽しむ
参加者	46 人
場所	秋津療育園周辺
まとめ	① 計 16 回実施した。 ② 季節に応じた景観の良いコースや、参加者の興味に沿った内容で実施した。 ③ 利用者の急変に備えるため、吸引が必要な利用者が参加する場合には看護師が同乗し対応した。

⑦ パラバルーン活動

目標	① 少人数の活動を楽しむ(皆で 1 つのことに取り組み、職員を介して他者とのかかわりを楽しむ) ② パラバルーンを使用し、普段と違った遊びを楽しむ
参加者	49 人
場所	1 棟中庭（雨天時：園内・浴室）
まとめ	① 計 16 回実施した。 ② パラバルーン使用時にシャボン玉を機械で発生させると風に乗って舞い、利用者が目で追う様子が見られた。 ③ 雨天時はゲームを行いながら園内を散歩した後、浴室でシャボン玉とパラバルーンを実施した。浴室内でもパラバルーンの色や風に乗って舞うシャボン玉を楽しむことができた。

⑨ 体験活動：大型遊具

活動内容	体験活動：大型遊具
目標	① 少人数の活動を楽しむ(皆で 1 つのことに取り組み、職員を介して他者とのかかわりを楽しむ) ② 大型遊具に触れ、身体を動かすことや普段と違った遊びを楽しむ
参加者	13 人
場所	プレイルーム

まとめ	① 計6回実施した。 ② 音楽や利用者の様子に応じて、エアートランポリンの揺らし方を工夫した。 ③ 最後にはクールダウンとして、ゆったりとした音楽を用い、寛ぐ時間を設けた。 ④ 安全管理およびMRSA対応に配慮し実施した。
-----	--

⑩ 体験活動：制作

活動内容	制作
目標	① 少人数の活動を楽しむ(皆で1つのことに取り組み、職員を介して他者とのかかわりを楽しむ) ② 感覚遊びを取り入れ制作した物で遊ぶ ③ 作品を披露し、褒めてもらう
参加者	10人
場所	病棟内
まとめ	① 計5回実施した。 ② 制作物を完成させ、その後に遊ぶという流れは、参加者にとって「作る楽しみ」「遊ぶ楽しみ」に加え、達成感にもつながった。 ③ 活動全体は楽しめていたが、制作そのものを楽しめる参加者は限られていた。

⑪ おしゃれ

活動内容	おしゃれを楽しむ
目標	① 少人数の活動を楽しむ(皆で1つのことに取り組み、職員を介して他者とのかかわりを楽しむ) ② 洋服を着替え、ネイルやスキンケア、ヘアセットを行うことで本人の嗜好に応じた装い等を通じて自己表現の喜びを感じる ③ お披露目や写真撮影を行い、コミュニケーションを図りながら雰囲気を楽しむ
参加者	4人
場所	病棟内
まとめ	① 計2回実施した ② 本年度より着替えを省略したことで、ヘアアレンジやネイルアートなど、個々の好みに応じた内容をゆっくりと実施することができた。 ③ お披露目の際には周囲から多くの称賛を受け、利用者が嬉しそうな様子を示した。

⑫ iPad活動

活動内容	iPadを用いた感覚・創作活動
目標	① 少人数活動を楽しむ(皆で1つのことに取り組み、職員を介して他者とのかかわりを楽しむ) ② iPadを使うことや、iPadを使って他者と遊ぶことを楽しむ ③ 画面に触れることで起こる変化を楽しむ
参加者	6人

場所	病棟内
まとめ	① 計3回実施した。 ② iPadについては、ボタンやスイッチのような操作感覚が得にくいため、触れると画面上に明確な変化が表れるアプリに対して反応が見られた。 ③ ゲーム性の高いアプリは内容理解が困難であるため、単純かつ分かりやすいアプリを選定する必要があった。

2. 療育部 第2病棟

1) 入退所の状況

本年度の入退所の状況は、新規入所者1人、転出2人(他病棟へ転出)、死亡退所4人であった。2025(令和7)年3月末時点で準重症児(者)は6人であった。

2) 利用者の状況

利用者の状況は、高齢化の影響により機能低下が顕著に表れている利用者が増えており、リハビリテーション室と連携して改善に取り組んだ。

3) 取組実績

① 料理教室

活動内容	料理教室
実施回数	9回
参加者	39人
場所	居室、大会議室
まとめ	① 料理教室を開催したことで、普段は関わる機会の少ない栄養科職員と交流や、実施場所を大会議室で行ったことにより居室とは異なる個別性を体験することができ、病棟閉鎖中においても完成品を喫食するすることができた。 ② メニューは豊富であったが、居室ごとに食事形態が異なる利用者があるため、選択できる内容は限定的であった。

③ プレけやき大学

活 動 内 容	① ピアノ・マリンバ鑑賞 ② 秋探しビンゴ ③ トランポリンや素材に触れる感覚遊び(海を感じる) ④ ブローチ作り ⑤ 卒業式
目 的	① けやき大学にスムーズに移行できるようにする ② グループ活動を行なうことで他者を意識する ③ 興味の拡大、機能の維持や向上、集中力の向上
実 施 回 数	8回
参 加 者	4人
場 所	8号室、病棟内浴室、大会議室
ま と め	新たな感覚遊びを多く取り入れたことにより、利用者が興味を示す場面が増え行動に変化が見られた。

③ 散歩・ドライブ・園外療育

目的

散歩・ドライブ活動を通じて、街の様子など普段とは異なる雰囲気や景色に触れることで、新たな発見や楽しみを体験し、環境変化によりストレスの軽減を図る。

内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
散歩	人数	60	70	13	0	0	10	36	36	59	58	85	42	469
ドライブ散歩	人数	10	8	4	6	10	9	6	4	12	21	10	18	118
	回数	5	4	2	3	7	5	3	2	6	10	5	9	61
園外	人数	6	13	6	8	0	6	6	0	5	0	0	0	50
	回数	2	4	2	3	0	2	2	0	2	0	0	0	17

④ 王子様カフェ

園庭に出て季節を感じながらデザートを自分で選び味わい、普段食べないものを味わうことで新たな発見、楽しみを体験する。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	15	8	8	7	21	15	5	0	10	8	15	0	112
回数	2	1	1	1	3	2	1	0	2	1	1	0	15

5) グループ取組実績

① 音楽取組

活動内容	① 音楽取組（ピアノ演奏会、楽器演奏会） ② 個別音楽取り組み
目的	① 個々に合った音楽を聴き楽しむ・音楽に触れ、気分転換を図る ② 落ち着いた環境で音楽が楽しめ、リラックスしてもらう
実施回数	① ピアノ演奏会 9回 参加者 50人 楽器演奏会 7回 参加者 46人 ② 個別音楽取り組み 18回 参加者 1人
場所	① 大会議室、病棟内浴室 ② 言語聴覚室手前
まとめ	① タッチベルやリコーダーをはじめ各種の楽器を用いて実施した。普段は触れる機会の少ない音により穏やかな表情を示す利用者がいた一方で、音が混在することによって不穏状態となる利用者や、入眠・飽きを示す利用者もいた。鑑賞の場面では概ね良好な反応が得られたが、実際に楽器に触れる活動においては反応が乏しい利用者も多かった。 ② 当初は慣れない環境のため大声を発するなど落ち着かない様子が見られたが、月2回程度の定期的な実施を重ねることで、徐々にリラックスして取り組む姿が確認された。

② リラクゼーション

活動内容	① リラクゼーション取り組み ホットパック、アロママッサージ、足浴、CDにてリラクゼーション音楽鑑賞 ② おしゃれ取り組み 美容エステ、おしゃれ体験
目的	① 心身共にリラックスする 主訴・症状に合わせたマッサージを提供し、軽減を図る (便秘、下肢のむくみ、冷え、皮膚の乾燥、筋緊張など) ② オシャレを楽しみ、スタッフに声をかけてもらい、喜びや楽しみを感じる
実施回数	マッサージ 11回 参加者 50人 おしゃれ 8回 第2病棟 全利用者
場所	各居室
まとめ	① 利用者ごとのマッサージ推奨部位を一覧表にまとめたことで、より効果的に実施することができた。 ② 普段とは異なる服装や化粧を取り入れることで、利用者が非日常を楽しむ様子が見られた。

④ スヌーズレン

活動内容	スヌーズレンを用いてのリラックス
目的	① 穏やかな光・音・振動を感じて心身共にリラックスする ② 職員とコミュニケーションを取ることで気持ちが満たされる
実施回数	18回 参加者第2病棟 全利用者
場所	病棟内浴室、居室内、8号室
まとめ	光に集中する様子や、バイブレーションホースやチェンブランケットの使用により常同行動が落ち着く様子が確認され、カラーライティングキューブを使用することで、コミュニケーションが円滑になる利用者もいた。

3. 療育部 第3病棟

1) 入退所の状況

本年度の入退所の状況は、新規入所者2人、転出2人（他病棟へ転出）であった。2025(令和7)年3月末時点で準重症児（者）は5人であった。

2) 利用者の状況

コロナ禍における療育や日中活動、制限された生活様式は利用者にとって負担となり、ストレスから情緒が不安定となる利用者が多く見られた。

利用者の平均年齢は58歳となり、リハビリテーション室と連携して運動機能低下の予防に取り組んだ。

3) 取組実績

昨年度に引き続き、コロナ対応のため居室単位で過ごす時間が多かったが、感染状況や利用者の健康状態に配慮しつつ活動内容を見直し、種類を増やすことで活動の幅を広げることができた。

① 料理教室

活動内容	料理教室
目標	利用者自身で調理することを通してデザート作りの工程を知る
実施回数	5回
参加者	26人
場所	各居室、大会議室
まとめ	プリン、タルト、ホットケーキ、紅茶カフェオレなどを提供した。

4) 病棟全体の取組

活動内容	バレンタインデー、ホワイトデー、音楽会、園芸、お楽しみ会、ドライブ、実験、年賀状、暑中見舞い制作
目標	① 季節に応じた文化・行事を体験する ② 活動の幅や興味の拡大を図る
参加者	利用者40人、職員25人

5) グループ取組

① 園芸

活動内容	園芸（植物の成長過程の観察や手入れ、収穫の実施）
目的	① 土や野菜に触れ、野菜の成長過程を楽しむ ② 収穫体験や制作を通して植物に触れる機会を設ける
実施回数	11回
参加者	利用者21人 職員3人
場所	病棟内

まとめ	野菜の感触や香りを楽しみつつ収穫することや、育てた植物を用いて制作物を作成したことで、栽培から収穫までの一連の流れを体験することができた。
-----	---

② 勉強

活動内容	主にパワーポイントを使用し、講義受講の疑似体験をする
目的	利用者の身近な事柄に関する知識の提供
実施回数	20 回
参加者	利用者 17 人 職員 3 人
場所	病棟内
まとめ	体験型の内容を中心に実施し、外部から機器をレンタルして活動に活用したことで活動の幅が広がり、利用者の反応も概ね良好であった。

③ スヌーズレン

活動内容	スヌーズレングッズを使用しリラクゼーションの提供
目的	穏やかな光・音・振動を感じて心身共にリラックスを図る
実施回数	23 回
参加者	利用者 22 人 職員 3 人
場所	活動部屋
まとめ	本年度から、新たにスヌーズレングッズを利用者と共に制作する活動を取り入れ、季節に応じて使用する映像や環境設定を変更し変化を持たせた。

④ 音楽

活動内容	音楽（ライブ動画鑑賞）
目的	大画面でコンサート映像を楽しむ
実施回数	26 回
参加者	利用者 18 人 職員 4 人
場所	病棟内、大会議室
まとめ	映像素材として YouTube を活用し、大会議室において大型スクリーンで映像を鑑賞することで臨場感を得ることができた

⑤ 運動

活動内容	運動（利用者の機能に合わせた運動やストレッチの実施。活動後にリラクゼーション、マッサージを行う）。
目的	利用者の運動機能に合わせた活動の提供
実施回数	16 回
参加者	利用者 18 人 職員 4 人
場所	リハビリテーション室

まとめ	運動のバリエーションを増やし、利用者の状態に合わせて幅広い運動が提供できるように工夫した。
-----	---

4. 療育部 第4病棟

1) 入退所の状況

本年度の入退所の状況は、新規入所者3人、死亡退所が4人であった。2025(令和7)年3月末時点で超重症児(者)1人、準重症児(者)11人であった。

2) 利用者の状況

新規入所者の年齢の内訳は、3歳(幼児期)、11歳(学童期)、動く重症児である27歳(成人)であり、年齢や生活状況に応じた支援方法の確立するために多くの時間を要した。

利用者の高齢化が進み、加齢に伴う疾患や全身状態の不良の悪化や吸引や注入など医療的ケアの必要度が増え、経鼻経管から胃造設へ移行する事例もあり、超重症児(者)および準重症児(者)に該当する方は昨年度から増加した。

3) 取組実績

① 個別活動

活動内容	サウンドヒーリング、スヌーズレン、セラピー、散歩、外気浴、運動
目的	個別支援計画に準じ個々に適した活動を実施する
実施回数	毎月10～15回
参加者	利用者30人、第4病棟職員全員
場所	病棟内

② 散歩

活動内容 : 散歩

目的 : 情緒の安定、気分転換を図る

場所 : 秋津療育園周辺、空堀川

内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
散歩	人数	33	88	74	37	0	0	0	103	115	123	107	117	798

③ ドライブ活動

活動内容 : ドライブ

目的 : バスの乗車によりドライブを楽しむ。情緒の安定、気分転換を図る

実施回数 : 毎月 10～15 回

場所 : 多摩湖、西武園

内容		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
ドラ	人数	33	29	29	39	12	25	29	35	31	44	30	36	372
イブ	回数	20	11	13	18	5	11	13	16	14	18	14	17	170

④ リハビリ活動

活動内容	個々に合わせた機能運動・動作をする
目的	① 体機能の低下の防止 ② 身体を動かしさまざまな刺激を楽しむ機会を作る
実施回数	毎週火曜日、金曜日
参加者	利用者 9 人 第 4 病棟職員全員
場所	病棟、多目的室

⑤ デザート（お茶会）

活動内容 : 数人でスイーツを食べる

目的 : 季節に合わせたスイーツを楽しむ

実施回数 : 毎月 1 回

場所 : 多目的室、大会議室、プレイルーム

内容		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
デザート	人数	33	29	29	39	12	25	29	35	31	44	30	36	372

5. 療育部活動報告

1) 年間行事

行事名	日程	内容
誕生会	毎月 第3日曜日	誕生者の紹介、手作りカードとプレゼントを贈り、 お祝いの歌や季節の歌、職員による出し物などを行う (7月は第1日曜日、9月は第2日曜日、12月と3月は第1日曜日)
料理教室	通年	栄養管理室協力のもとメニューを調整し、料理を作る工程を体験、試食する。 実施回数 第1病棟2回、第2病棟7回、第3病棟7回 合計16回実施
お花見	3月下旬～ 4月上旬	第1病棟の園庭で実施 おやつを食べ桜の花を見物
こどもの日	5月5日	こどもの日に関連したお楽しみ会を実施
運動会	6月開催	第1病棟(6月12、19日)、第2病棟(6月4日) 第3病棟(6月15日)、第4病棟(6月13日)
七夕	7月7日	笹に願いごとを書いた短冊や飾りを装飾 7月に七夕にちなんだお楽しみ会を実施
デザート バイキング	7月、8月	栄養管理室に協力いただき、数種類のデザートメニューをゆつくりと ながれる時間の中で楽しむ 第1病棟(7月23日)、第2病棟(8月1日)、 第3病棟(8月8日)、第4病棟(7月9日)
納涼会	9月	時間 13:00～15:00 場所 第2棟中庭 各棟および各居室単位において、お楽しみ会(出店など)、神輿、盆踊り、花火を、各棟で日程を調整のうえ実施した。 第1病棟(9月11日、18日)、第2病棟(9月17日) 第3病棟(9月5日)、第4病棟(9月26日)
お月見	9月中旬	お月見にちなんだ装飾をしてお話やゲームを行う
文化祭	11月～ 翌年2月	各棟にて実施
昼食 バイキング	11月 2月	栄養管理室に協力のもと、十数種類のメニューの中からそれぞれの利用者の好みに合った物を楽しみながら食べる 第1病棟(11月22日)、第2病棟(11月14日) 第3病棟(11月7日)、第4病棟(2月12日)
クリスマス会	12月	クリスマスケーキ配膳 第1病棟(12月11日)、第2病棟(12月11日、18日) 第3病棟(12月19日)、第4病棟(12月21日)

お正月	1月上旬	初詣 各棟にお賽銭箱を設置 書初め、凧揚げ、羽根つき、福笑いなど正月あそびを行う
節分	2月3日	鬼や福の神のお面を制作する 年男・年女の利用者を中心に病棟ごとに豆まきを行う
ひなまつり	3月3日	お雛さまの装飾を飾る、歌やゲーム、お話を楽しむ

2) セラピールーム

目的

- ① ホットパック、マッサージを行い、リラックス効果を図る
- ② 精油の香りを楽しみ、生活のゆとりを生み出す

実施状況

病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(人)
第1病棟	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	10
第2病棟	4	8	2	13	8	6	3	8	6	7	11	0	76
第3病棟	3	4	4	3	3	3	4	3	5	4	0	0	36
第4病棟	10	11	12	14	0	7	14	11	17	16	9	8	129
合計	17	24	19	31	11	17	22	23	29	28	21	9	251

3) SH (サウンドヒーリング)

目的

- ① 恒常性機能の活性を促すための取り組みとして、音叉と精油を使用したトリートメントを行う
- ② 施術者の状態を整える事でより良い施術が出来るという理念に基づいた施術
- ③ 全職員へのSHの周知

実施状況

病棟	参加人数	回数	備考
第1病棟	33	22	
第2病棟	81	48	
第3病棟	50	27	
第4病棟	0	0	
合計	164	97	

6. 療育サービス課

1) 入退所一覧

(単位；人)

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
入 所	第 1 病棟	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	第 2 病棟	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	第 3 病棟	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	第 4 病棟	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3
	合計	0	0	2	1	1	0	1	0	0	1	0	1	7
退 所	第 1 病棟	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	第 2 病棟	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	4
	第 3 病棟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第 4 病棟	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	4
	合計	1	2	1	0	0	0	2	0	2	0	0	1	9

① 新規入所は 7 人、死亡退所は 9 人であった。

② 新規募集の選考は 4 件実施した。

2) その他の業務

利用者および家族関係	① 成年後見人選任、変更、追加の連絡、家族からの相談等 ② ワクチンなどの同意書の送付・回収 肺炎球菌（対象者 12 人）、インフルエンザ、Covid-19 ワクチン ③ 医務部、療育部より 書類の送付・回収 入院診療計画書・個別計画書・サービス提供記録書等 ④ メール配信サービスによる連絡網の運用
リハビリ関係	① 車椅子、補装具の新規製作や修理時の連絡、書類手続き 延べ 201 件 ② リハビリテーション室との連絡
療育活動	① 音楽活動、ポップリづくり、個別活動など 268 回 ② 病棟内の活動やリハビリテーションの活動への参加、 行事への協力 19 回 ③ 終末期の利用者への音楽活動 84 回 ④ SLP センターアークでの音楽活動 21 回
その他	① 認定調査 82 件 ② 東京都小平特別支援学校との連絡 ③ 東京都知事選挙、衆議院議員選挙実施 利用者の意思確認・市への連絡・手続き・投票準備など ④ 市民税・都民税申告 利用者 62 名分(東村山市市民税係へ提出) ⑤ ボランティア受け入れ、イラスト作成

2) 短期入所

①利用実績

(単位 ; 床)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間
利用病床数	35	49	69	109	137	137	78	67	75	104	124	114	1,098

②短期入所に関する手続き

内訳	人数	備考
契約者数	35	
新規契約者	13	
児童一時保護委託	1	
緊急受け入れ	6	受入理由：自宅での養育・介護困難、葬儀参列
契約解除	7	受入理由：施設入所及びグループホームに入所が決まったため
新規診察	13	新規診察 13 人の内、動く重症児(者)が 6 人であった。
体験入所	14	
短期入所見学	3	

秋津療育園通園センター（生活介護事業）

1. 事業概要

1) サービスの種類

日中活動	個別活動・全体活動・行事・外出活動
送迎	委託バス 3台 2コース（3便） 法人所有車（ワゴン）1台（5コース） ※看護師添乗 19人送迎
入浴	希望者全員実施 週1回 月曜日～金曜日 午前中に実施
健康管理	日々の管理、月ごとの管理、予防接種など
その他	個別支援計画、相談、ご家族懇談会、個人面談など

2) 年間休日および開所時間

- ① 年間休日； 土日祝および年末年始（12月29日から1月3日まで）
② 開所時間； 午前9時00分 ～ 午後5時00分

2. 利用者の状況（2025(令和7)年3月31日現在）

1) 登録数内訳

- ① 定員数：20人 登録数：19人 内訳（男性：6人、女性：13人）
② 平均年齢：31.5歳

2) 居住地域

- ① 東村山市（8人）② 清瀬市（2人）③ 西東京市（2人）④ 東久留米市（4人）
⑤ 東大和市（2人）⑥ 小平市（1人）

3) 入退所の状況

退所 2人（6月、8月に長期入所へ移行のため）

4) 利用者詳細

① 年齢内訳 (単位：人)

年齢	19～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
利用者数	9	6	3	1	19

② 在籍年数 (単位：人)

在籍年数	1～3年	4～9年	10～20年	21年以上	合計
利用者数	2	7	8	2	19

③ 通所日数 (単位：人)

通所日数	週 2 日以下	週 3 日	週 4 日	週 5 日	合計
利用者数	4	5	1	9	19

④ 大島分類内訳 (単位：人)

大島分類	1	2	3	4	合計
利用者数	13	4	0	2	19

※全利用者が障害区分 6 に該当。

⑤ 主要病因 (単位：人)

病名	人数	病名	人数
脳性まひ	8	髄膜炎後遺症	1
染色体異常症	1	A 群色素性乾皮症	1
4 p-症候群	1	神経性皮膚黒色症	1
虚血性低酸素脳症	1	ヘルペス脳炎後遺症	1
低酸素脳症	1	レット症候群	1
副腎白質ジストロフィー	1	ドラベ症候群	1

5) 利用者の医療的ケア

① 全体に占める医療的ケアを必要とする利用者； 67%

② 呼吸管理対象者；

人工呼吸器/24時間 2 人、必要時 1 人、夜間 2 人、在宅酸素 4 人

③ 吸入、吸引及び経管栄養など医療的ケアを必要とする方；14 人

④ 超重症児者スコア (単位：人)

医療的スコア	10点未満	10点以上25点未満	25点以上	合計
人数	8	4	7	19

※利用者全体に占める超重症・準超重症者の割合：57%

6) 2024年度月別登園状況

	開園日数	月間定員数	月間登園 予定数	月間 登園数	臨時登園数	稼働率(%)	欠席数
4月	21	420	307	224	0	53.3	83
5月	21	420	307	209	0	49.7	98
6月	20	400	305	182	0	45.5	73
7月	22	440	292	204	0	46.3	88
8月	20	400	308	239	0	59.7	69
9月	19	380	278	199	0	52.3	79
10月	22	440	323	228	0	51.8	95
11月	20	400	292	194	0	48.5	98
12月	20	400	292	202	0	50.5	90
1月	13	260	191	110	0	42.3	81
2月	18	360	263	180	0	50.0	83
3月	20	400	290	202	0	50.5	88
計	236日	4,700人	3,448人	2,373人	0人	50.4%	1,025人

※稼働率＝出席者数÷（定員数×開園日数）

※欠席理由 1. 家族都合／その他 2. 短期入所 3. 体調不良 4. 受診 5. 入院
感染症対策などの欠席理由はその他に含む

3. 年間スケジュール

1) 2024年度月別行事

月別	行事名	その他取組
4月	お花見、誕生会	
5月	誕生会	多摩地域施設交流会（リモート）
6月	誕生会	
7月	七夕、誕生会	ビニールプールでの魚釣り、映画鑑賞
8月	誕生会	スイカ割り、外出（イオンモール）
9月	誕生会	散歩、外出（航空公園）、ファッションショー
10月	誕生会、料理教室	散歩、ファッションショー
11月	誕生会	インフルエンザ予防接種、散歩、ファッションショー
12月	クリスマス会、誕生会	インフルエンザ予防接種
1月	初詣、正月あそび、誕生会	書初め
2月	豆まき、誕生会、料理教室	
3月	ひな祭り、料理教室、誕生会	散歩

4. 活動状況

1) 外出活動

散歩や外気浴	気候が良い日に駐車場や中庭で外気浴 通園センター周辺の散歩
イオンモールや航空公園	感染対策を講じ、ご家族の同意を得て実施

2) 地域参加活動

リモートによる多摩地域の施設交流会に参加

3) 日中活動

個別対応を中心とした活動を実施するとともに、全体活動では感染対策を講じながら季節行事を取り入れて実施した。

運動	① 個別支援計画に基づき、歩行や座位保持などの機能訓練を実施した。 ② 呼吸管理が必要な利用者には、肺リハビリテーションや姿勢変換を行い、排痰を促した。 ③ 冬季は身体が硬くなりやすいため、マッサージやストレッチを中心に実施した。
音楽	① 季節感を意識した歌を鑑賞したり、ハンドベルや鈴などの楽器を用いて演奏した。 ② 手あそび歌にあわせてマッサージやストレッチを行った。
制作	① 季節の行事に合わせて壁飾りなどを制作した。 ② クリスマス会などの行事に向けた準備制作を行った。
心安	① 暗室にして、光、映像、音楽などで雰囲気 연출し、リラクゼーションを図った。 ② アロマオイルを用いて心身のリラックスを促した。 ③ 夏季には氷などを使用したクーリングを実施した。 ④ 手足浴、ホットパックにて血流の循環を促した。(主に冬季)
遊楽	① ゲーム ② トランポリン ③ バランスボール
生活	① 七夕やひな祭りなど、季節の行事に関する学びを実施した。 ② 本や絵本の読み聞かせを行った。 ③ 映画鑑賞を実施した。 ④ 散歩や外気浴などの戸外活動を行った。 ⑤ おしゃれ体験については、個別性やご家族の思いを反映し、全利用者に実施した。

4) 活動実績

(単位:回)

	運動	制作	遊楽	心安	音楽	生活	外気浴	外出活動	個別活動	合計
4月	13	0	3	3	4	22	8	0	23	76
5月	7	0	16	8	2	25	9	2	24	91
6月	15	6	7	8	3	24	3	0	19	75
7月	22	4	10	12	8	21	0	2	31	110
8月	22	0	6	9	7	20	0	0	25	93
9月	23	4	7	5	6	23	1	0	29	102
10月	15	13	5	3	2	21	2	0	33	89
11月	15	0	10	12	5	25	5	0	25	105
12月	12	17	4	8	7	20	2	0	26	97
1月	11	14	3	5	6	15	2	0	22	78
2月	21	6	2	12	9	24	2	0	17	93
3月	24	7	1	9	19	18	6	0	22	106
合計	200	71	74	94	78	258	40	4	296	1,115

※本年度、ボランティア公園とプールは実施していない。

5) 見学

件数：3回 (延べ人数 15人)

5. 職員の構成

管理者	1人 常勤・兼務	サービス管理責任者	1人 常勤
医師	1人 常勤・兼務	看護師	5人 常勤
支援員	6人 常勤	作業療法士・言語聴覚士	4人 兼務

6. 研修・その他

1) 連絡会等

- ①都内重症心身障害児(者)通所施設連絡会
- ②第26回 全国重症心身障害日中活動支援協議会 (リモート)
- ③第27回 全国重症心身障害日中活動支援協議会 開催打合せ会議 (リモート)
- ④多摩地域施設交流会実行会議 (リモート)

2) 研修

- ①摂食・嚥下指導（基礎・実習）講習会（リモート） 1人
- ②小平特別支援学校公開授業見学
- ③医療的ケア看護師講習会参加
- ④重症心身障害児・者の意思表出支援講習参加
- ⑤サービス管理責任者研修
- ⑥重症障害児者医療看護師研修
- ⑦介護職員等に痰の吸引等の実施のための研修（特定の者対象） 2人

秋津療育園相談支援センター（相談支援事業）

1. 事業概要

①指定計画相談支援 ②指定障害児相談支援

2. 職員配置状況

管理者	常勤兼務 1人
相談支援専門員	常勤専従 4人 常勤兼務 2人

※相談支援専門員（社会福祉士、精神保健福祉士、その他）

3. 契約状況

2024年度の契約者数は、秋津療育園通園センター利用者を含めた地域の成人契約者が282人、児童契約者が166人、秋津療育園に入院されている利用者が168人であった。

4. サービス等利用計画およびモニタリング報告書提出実績

本年度、秋津療育園相談支援センターが提出した障害福祉サービス等利用計画（成人）は188件、モニタリング報告書（成人）は461件。障害児支援利用計画（児童）は170件、モニタリング報告書（児童）は250件。障害福祉サービス等利用計画（秋津療育園利用者）は0件、モニタリング報告書（秋津療育園センター利用者を含む）は45件であった。

5. 2024年度月別請求等件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	成人	0	0	1	0	0	1	2	0	2	0	0	1	7
	児童	0	1	0	0	3	1	1	3	0	0	0	0	9
計画	成人	19	19	16	14	17	17	10	19	9	12	15	21	188
	児童	10	11	15	15	12	13	18	10	8	7	26	25	170
モニタリング	成人	31	53	47	36	34	36	25	45	50	38	29	37	461
	児童	34	13	24	19	13	19	20	18	22	19	27	22	250
その他	成人	17	19	12	16	18	22	18	13	15	19	14	18	201
	児童	8	16	7	0	2	2	1	3	2	3	4	6	54
合計	成人	67	91	76	66	69	76	55	77	76	69	58	77	857
	児童	52	41	46	34	30	35	40	34	32	29	57	53	483

6. 地域の活動状況

東村山市自立支援協議会の専門部会である相談支援部会の一員として定例部会に参加した。定例部会は集会形式で毎月開催され、内容は東村山市からの情報提供や事務連絡、参加事業所による報告・情報交換、事例検討、地域課題の抽出、他分野（児童・高齢）との交流会などであった。

また本年度からは相談支援部会等の検討を目的として「相談支援専門員主任会」が創設され、毎月の協議に参加した。

7. 研修

①令和6年度相談支援従事者現任研修に関する実習説明会 日程：5月27日

②東京都相談支援従事者現任研修 日程：7月4日、8月22日、23日

③強度行動障害基礎研修 日程：8月30日、9月17日

④小児在宅医療サポートチーム勉強会 日程：10月10日

⑤東京都発達障害者支援体制整備推進事業

発達障害者相談支援スキルアップ研修「相談支援研修Ⅲ青年期の発達障害」

日程：11月26日

⑥4市相談支援交流会 日程：12月13日

⑦アンガーマネジメント研修 日程：12月17日

⑧令和6年度東京都相談支援従事者専門コース別研修

＜介護支援専門員との連携＞

日程：12月18日、24日

⑨障害者の性の勉強会 日程：3月6日

⑩身体介護が必要なこどもの在宅での入浴の工夫 日程：3月25日

定例会議一覧

1) 施設基準・法律等により設置されている会議

会議名	会議内容
医療安全管理委員会	実施回数：月1回 出席者： 園長、副園長、医務部長、療育部長、療育部次長、筆頭課長、各病棟看護科長、栄養室長、通園所長、サービス課長、相談所長、薬剤科員、検査科員、リハ室員、事務局員 内容： ひやりはっと委員会報告や感染症対策委員会等を通じて、安全管理全般について検討する。
感染症対策委員会	実施回数：月1回 出席者： 園長、副園長、医務部長、各病棟主治医、療育部長、療育部次長、筆頭科長、各病棟看護科長、栄養室長、通園所長、相談所長、サービス課長、薬剤科員、検査科員、歯科員、リハ室員、事務局員、業務課員 内容： 検査科員から施設内の検査結果の報告を受け、感染症の予防および対策について検討し、法人の感染対策に係る方向性を委員会で決定する。
褥瘡予防対策委員会	実施回数：月1回 出席者：病棟医師、看護科員、支援科員、薬剤科員、リハ室員、栄養室長 内容：利用者の褥瘡発生防止と対策について検討する。
身体拘束委員会	実施回数：年1回 出席者： 園長、副園長、担当医師、療育部長、療育部次長、各病棟支援科・看護科科長、事務局員 内容：身体拘束の状況について確認を行う。
適切な コーディングに 関する委員会	実施回数：年2回 出席者：担当医師、薬剤科員、事務局担当（医事課員） 内容： 標準的な診断および治療方法を園内で周知徹底し、適切なコーディングを行う体制を確保する。
給食委員会	実施回数：月1回 出席者：園長、担当医師、リハ室員、栄養室長、看護科員、支援科員、事務局員 内容：利用者の食事形態、メニューについて検討する。

安全衛生委員会	実施回数：月1回 出席者： 園長、産業医、各病棟看護科・支援科員、検査科員、 事務局員（衛生管理者）、業務課員 内容：施設内の労働環境の改善を図る。
薬事委員会	実施回数：年2回 出席者：園長、副園長、医務部長、担当医師、療育部長、薬剤科員 内容：施設内の薬品について購入、変更等を検討する。
医療ガス 安全管理委員会	実施回数：年1回 出席者： 担当医師、看護科員、検査科員又は薬剤科員、事務局員、 業務課員（汽罐担当者） 内容：医療ガスの状況について確認、検討を行う。
個人情報 保護管理委員会	実施回数：年1回 出席者：医務部員、療育部員、栄養室員、事務局員、業務課員 内容：各部署の個人情報保護の状況について確認、対応を検討する。
虐待防止委員会	実施回数：年4回 出席者：園長、副園長、療育部長、サービス課員、事務局員 内容：施設内の虐待の状況報告、虐待防止対策について検討する。
医療放射線安全管理 委員会	実施回数：年1回 出席者：担当医師、放射線技師 内容：診療用放射線について正しく理解し、安全管理の体制を整備する。

＊上記出席者の略名については、以下のとおりである。

① 部署

秋津療育園 医務部→医務部

秋津療育園 療育部→療育部

秋津療育園 医務部 リハビリテーション室→リハ室

秋津療育園 療育部 看護科→看護科

秋津療育園 医務部 栄養管理室→栄養管理室

法人事務局→事務局

医務部薬剤科→薬剤科、医務部検査科

② 役席者

秋津療育園長→園長

秋津療育園副園長→副園長

秋津療育園 療育部 筆頭科長→筆頭科長

秋津療育園 療育部 療育サービス課長→サービス課長

秋津療育園 通園センター所長→通園所長

秋津療育園 相談支援センター所長→相談所長

2) その他の会議

会議名	活動内容
四役会議	実施回数：月2回 出席者：理事長、常務理事、園長、副園長、事務局員 内容：法人の経営、運営に関する事項等について決定する。
連絡調整会議	実施回数：月1回（第1月曜日） 出席者： 理事長、園長、各部署の管理職（課長職が不在の場合、部署の代表者） 内容：各部署の状況報告し情報交換を行う。
医務部会	実施回数：月1回 出席者：医務部員 内容：医療に関する情報交換を行う。
療育部会	実施回数：月1回 出席者：療育部長、療育部次長、各病棟科長 内容： 活動方針、入院診療計画、個別支援計画、発達支援計画に沿った療育の実施内容を検討する。
入院診療計画書 個別支援計画書 検討委員会	実施回数：月1回 出席者 各病棟主治医、各病棟科長、リハ室員、看護科・支援科利用者担当員、サービス課員 内容：提出された入院診療計画書及び個別支援計画書の内容を検討する。
教育担当委員会	実施回数：月1回 出席者 療育部次長、各病棟科長、栄養管理室長、リハ室員、サービス課員、事務局員 内容：職員育成に関する研修教育の計画と実施、会報の編集を検討する。
倫理委員会	実施回数：年2回 出席者：園長、副園長、療育部長、事務局員、園長の指名する者 内容：施設内の倫理的な問題を調査、検討する。
死亡事例検討委員会	実施回数：随時 出席者： 園長、副園長、医務部長、療育部長、療育部次長、筆頭科長、各病棟科長、サービス課員、事務局員 内容：利用者死亡時の報告および事例について検討し、情報共有を図る。
短期・医療入院 ベッド調整会議	実施回数：月1回 出席者：療育部長、療育部次長、各病棟科長、サービス課員 内容：短期入所の受け入れに向け、調整を行う。
栄養ケアプラン	実施回数：月1回 出席者：

会議	園長、各病棟主治医、リハ室員、栄養管理室員、看護科員、支援科員 内容： 全利用者を対象に作成された栄養管理計画に基づき、関係職種が連携して栄養管理を検討し、栄養ケアプランを作成する。
ひやりはっと委員会	実施回数：月1回 出席者： 副園長、療育部次長、医務部員、薬剤科員、リハ室員、栄養管理室員、看護科員、支援科員、通園センター員 内容： 各部署・病棟から報告されたインシデント・アクシデント事例を委員会で共有し、事故分析を行った上で再発防止策を講じる。必要に応じて医療安全管理委員会へ報告する。
園生衣類検討委員会	実施回数：月1回 出席者：各病棟担当者、事務局員、業務課員 内容：利用者にとって快適な衣類を検討する。
輸血療法委員会	実施回数：年1回 出席者： 園長(医療安全管理者)、副園長、医師、療育部長、療育部次長、筆頭科長、薬剤科員、検査科員、事務局員 内容 輸血療法を円滑かつ適正に、最新の輸血情報に基づいて実施し、もって利用者の安全確保および治療効果の向上に寄与する。
ACP委員会	実施回数：必要に応じて 出席者 園長、副園長、医師、療育部長、療育部次長、事務局員、園長の指名する者 内容：終末期医療に関して家族の希望を確認し、治療方針を検討する。

※ 上記出席者の略名については、1) 施設基準・法律等により設置されている会議の記載と同様である。

研修報告

1. 2024年度現任研修

現任職員研修は、ビデオ視聴による研修を主とし、視聴期限を設けた上で記名式アンケートを提出する方法をとした。職員の研修受講率を高めるため、責任職がパソコン上で職員の受講状況を確認し管理を行った。

月	項目	講師	講義内容
6月	必須講義 ビデオ研修	WEB	療育上の事故防止Ⅰ 医療安全 患者誤認による重大事故対策
7月	必須講義 ビデオ研修	WEB	感染予防Ⅰ 標準予防策とゾーニング
8月	必須講義 ビデオ研修	WEB	虐待防止・行動抑制 障害者虐待の防止措置に伴う医療機関の責務
10月	必須講義 ビデオ研修	園長	感染予防Ⅱ 感染症に関する共通理解
11月	必須講義 ビデオ研修	WEB	個人情報について 守秘義務・個人情報保護の基本知識
12月	必須講義 ビデオ研修	看護科次長	療育上の事故防止Ⅱ 当園におけるヒヤリハット事例と状況
1月	必須講義 ビデオ研修	WEB	ハラスメント講義 みんなで目指す「ハラスメントのない職場」とは

2. 新規採用職員研修に関する状況

1) 前期研修

月日	講師	講義内容
4月1日	理事長	訓示・辞令交付
	理事長	天童会について
	栄養管理室長	職員食事、食事伝票書き方
	園長	重症児（者）と感染症
	療育部長	職員の心構えとマナー
	法人事務局員	就業規則、防災と消防、施設内設備案内、個人情報保護
	療育部次長(支援科)	研修まとめ
4月2日	看護科 担当者	看護科の役割について
	看護科 担当者	手指衛生、PPE 着脱
	栄養管理室長	栄養管理室の役割について
	療育部次長(支援科)	支援科の役割について

	支援科 担当者	心肺蘇生、AED
	リハ室 担当者	リハビリの役割について
	療育部次長(支援科)	研修まとめ
4月3日	リハ室 担当者	トランスファー研修

2) 採用職員研修（後期研修）

月日	講師	講義内容
10月25日	名誉園長	脳性麻痺、知的障害、てんかん
	看護科 担当者	呼吸器等の使用方法について
	支援科 担当者	振り返りと今後について
	リハ室 担当者	骨折について

3. 研究報告

1) 学会報告

第35回 重症心身障害療育学会 学術集会 演題
①発表者 第1病棟 演題：「重症心身障害児の主体性を育む取り組み」
②発表者 第4病棟 演題：「がん性疼痛の緩和に向けた取り組み」

2) 施設内演題

発表者	演題
第1病棟 看護科	「血圧変動が及ぼす食事摂取量との関連性」
第2病棟 支援科	「リフト導入後の現状と課題」
第3病棟 看護科	「長期臥床を送る園生の意欲を高める取り組み」
第4病棟 支援科	「ADLの向上に繋げる取り組み」
栄養管理室	「郷土料理から世界の家庭料理へ」

IV SLP センターアーク

IV. SLPセンターアーケ

1. 施設概要

- 1) 名称 : SLP センターアーケ
- 2) 所在地 : 東京都東村山市青葉町三丁目 9 番地 33、同番 35
- 3) 開設年月日 : 2021（令和 3）年 3 月 1 日
- 4) 施設の規模
 - ①敷地面積 : 1,558.22 m²
 - ②建物面積 : 771.74 m²
 - ③延床面積 : 1,223.23 m²
- 5) 建物構造 ; 鉄骨造 地上 2 階建て

エメット保育園（小規模保育事業A型）

1. 施設概要

1) 定員

0歳児枠：6人、1歳児枠：6人、2歳児枠：7人

2) 在園児数

(単位;人)

受入れ枠	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
1歳児	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
2歳児	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
合計	18	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19

※法人従業員の子ども1名を、他市からの委託園児として受け入れた。

2. 保育

1) クラス別目標

①ちゅうりっぷ組：0歳児枠（0～1歳）

一人ひとりの成長発達に合わせた生活リズムの中で、保育士との信頼関係を築きながら安心して成長できる保育を実践する。

②ひまわり組：1歳児枠（1～2歳）

- ・「自分で！」の気持ちを尊重し、子供たち一人ひとりの根気を信じて見守り達成感を得ることで自己肯定感を育てる。
- ・自我の芽生えを受け止め安心して喜怒哀楽を表現することで情緒の安定を図り、心豊かに育っていくよう取り組んでいく。

③さくら組：2歳児枠（2～3歳）

- ・保育士に援助してもらいながらも、着替えなど身の回りのことを自分でできるようになっていき、自らやってみようという意欲を育てる。
- ・それぞれの子どもが安心して園生活を行う中で、十分に自己発揮・自己表現ができるようにする。自らの気持ちを相手に伝えられるような力を育てる
- ・友達とかかわり合いながら、友達の気持ちに気づき共に遊ぶ楽しさを体験する。

3. 年間行事

月	内容
4 月	慣らし保育（4日間）
5 月	子どもの日、全体保護者会 定期健診
6 月	尿検査、歯科検診
7 月	戸外活動「ジャガイモ掘り」→猛暑のため中止 プールあそび
8 月	プールあそび
9 月	夏祭り（合同）
10 月	運動会（保護者参加）、ハロウィン
11 月	定期健診、戸外活動「さつまいも掘り」
12 月	クリスマス会(合同)
1 月	正月あそび
2 月	節分（合同）
3 月	ひな祭り、卒園式（卒園児保護者参加）

※上記以外に、毎月誕生会（合同）、お話し会（合同）、食育、避難訓練、身体測定を実施

- ・毎月1回「エメットだより」を発行。
- ・週1回くるくるタイムの実施（感染症による中止や不参加があり、状況により実施判断をした）。

児童発達支援センターマイム（東京都指定障害児通所支援事業）

1. 事業方針

1) 方針

児童発達支援とは、障害のある子どもに対し、身体的・精神的機能の適正な発達を促し、日常生活および社会生活を円滑に営めるようにするために行う支援であり、それぞれの障害特性に応じた福祉的・心理的・教育的・医療的援助である。

児童発達支援センターマイムは、子ども一人ひとりの安全と安心を守り、その可能性を最大限に伸ばすことを目指している。そのため、個々のニーズに応じた質の高い支援を提供するとともに、個別支援計画に基づき、内外の多分野・多職種の専門家と協働しながら、以下の視点に基づく支援を本人・保護者・地域に継続して提供していく。

- ① 発達支援（本人支援及び移行支援の推進）
- ② 家族支援（保護者支援、兄弟支援の推進）
- ③ 地域支援（インクルーシブな支援の推進）
- ④ 組織的運営（協働 クラス支援 行事、研究・研修などを協働で実施推進）

2. 事業概要

1) サービスの種類

- ①児童発達支援（福祉型児童発達支援センター）
- ②居宅訪問型児童発達支援、
- ③保育所等訪問支援

2) 対象者

- ①重症心身障害児、知的障害児、発達障害児、肢体不自由児など
- ②通常の事業の実施地域は、東村山市とその隣接地域。ただし障害児が自ら事業所へ通うことが可能であれば利用は可能とする。事業所の送迎車を利用する場合には、居宅までの距離が直線で概ね4km圏内。

3) 概要

- ①通所利用定員数：28人
- ②児童発達支援 重症心身障害児 一日支援 クラス名「ひかり」
- ③児童発達支援 重症心身障害児以外 一日支援 クラス名「にじ」
短時間支援 クラス名「そら」

※2024(令和6)年11月1日より児童発達支援センターの一元化を開始

- ④保育所等訪問支援 名称「かぜ」
- ⑤居宅訪問型児童発達支援 名称「かぜ」

4) 職員配置

(単位：人)

	常勤	非常勤	合 計	資格等
管理者	1	0	1	児童指導員
児童発達支援管理責任者	2	0	2	児童指導員 1 人、作業療法士 1 人
保育士	6	5	11	音楽療法士 1 人
看護師	2	0	2	
児童指導員	4	4	8	
機能訓練担当職員	4	1	5	理学療法士 2 人、作業療法士 1 人、言語聴覚士 1 人
栄養士	1	0	1	
調理師	1	0	1	
運転士	0	1	1	
嘱託医	0	1	1	
合 計	21	12	33	

*職員配置は2025年3月末時点

*その他 歯科検診年 2 回「オリーブ小児歯科」契約

3. 実績

1) 年齢別利用児内訳

(単位：人)

	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳 以上	合計
ひかり（重心一日）	0	1	4	2	2	4	0	0	13
にじ（重心外一日）	0	0	3	5	9	2	1	0	20
そら（重心外短時間）	0	0	1	5	13	5	13	0	37
かぜ（保育所等訪問支援）	0	0	1	4	10	7	13	12	47
かぜ （居宅訪問型児童発達支援）	0	1	1	0	0	0	0	1	3
合 計	0	2	10	16	34	18	27	13	120

2) 延利用数の推移

(単位：人)

クラス名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
ひかり	88	91	71	83	84	84	92	94	96	80	94	105	1,062
にじ	118	98	104	118	107	117	132	144	160	157	142	169	1,566
そら	101	105	109	138	118	120	129	118	116	111	107	124	1,396
かぜ	17	26	25	31	16	27	41	39	40	41	37	39	379
合 計	324	320	309	370	325	348	394	395	412	389	380	437	4,403

4. 利用者支援

1) 保護者支援

① にじクラス保護者会 2回実施 ひかりクラス保護者会 1回

2) 保護者研修会（オンライン、対面、動画配信による）

① 「特別支援学校（肢体不自由部門）小学部の就学について」

～医療的ケアを必要とするお子さまの就学について～

東京都立肢体不自由特別支援学校就学中の保護者 1名講師

② 「小学校（通級や特別支援学級）や特別支援学校（知的障害）小学部等の就学に向けて」

東村山市障がい児保護者連絡会 保護者の先輩 3名が講師

③ 1、2歳児の保護者支援プログラム

マイム親子遊びの会「わくわく」

2024(令和6)年7月1日から2025(令和7)年3月31日 全17回実施

5. 施設評価

1) 第三者評価

NP0法人日本ライフサポートによる保護者および職員アンケートと現場調査

2) 児童発達支援の自己評価

保護者および職員アンケートの実施

6. 関係機関との連携

1) 東村山市

① 児童発達支援事業所に関する連絡会（10月、2月）開催

インクルーシブ支援について講義、就学支援について

② 自立支援協議会 定例会（8月、12月、3月）

③ 自治会 施設見学会（9月）

④ 健康福祉部 障害支援課 随時相談、市議会資料提出 年2回

⑤ 第6次地域福祉計画 策定委員会(毎月)

2) 利用児の地域連携

① 利用児関係者会議

② 併行保育先の保育園・幼稚園職員見学、当センター職員の訪問

③ 東村山市教育委員会特別支援係 就学前施設訪問

④ 卒園前事業所訪問 2件（清瀬特別支援学校、小平特別支援学校）報告書等の提出

⑤ 地域の相談支援専門員情報交換

7. 職員研修

1) 講師研修

① 令和6年度 摂食支援研修 年間12回

講師 NP0法人 地域ケアさばーと研究所 作業療法士 白鳥 芳子 氏

② 令和6年度 発達障害児支援研修会 年間5回

講師 白梅学園大学子ども学部 准教授 廣澤 満之 氏

③ 令和6年度 就学相談研修「先輩ママに聞いてみよう」研修会ⅠおよびⅡ

④ 令和6年度 地域保護者支援研修会（わらべうたあそび研修会）

講師 わらべうたあそび研究会 WAK 代表 平沼 美春 氏

2) SLP センターアーク合同研修会

講師：株式会社スペースなる代表 梶原厚子氏、理学療法士 川島瞳氏

3) オンデマンド研修会

- ① 『田中先生の仲間と子どもたち～てんかんと呼吸について～』
- ② 『小さく生まれた赤ちゃんについて～』
- ③ 『ASD の人への視覚的コミュニケーション支援 -PECS®を中心に-』
- ④ 『子どもの心臓のお話』
- ⑤ 『傷ついた親子に、幸せを～小児神経科医・友田明美』（虐待防止研修）
- ⑥ 『障害者施設の虐待について』

4) 合同活動

SLP センターアーク建物内にあるエメット保育園と連携し、保育活動を実施した。週単位の「くるくるタイム」、月単位の「誕生会」、年間行事として「夏祭り」「クリスマス会」「節分」を実施した。

また、新たな取り組みとして、11月からは「センサリープレイ」に計5回取り組み、障害の有無に関わらず、インクルーシブな仲間づくりや遊びが展開された。